



大阪市立大学 同窓会報

有恒

yuko

2018 July vol.16

[合冊記念号]

● 有恒会 (商・経・法・文同窓会) ● 理学部同窓会 ● 工学部同窓会 ● 医学部同窓会 ● 生活科学部同窓会 ● よつば会 (看護系同窓会) ● 創造都市研究科同窓会



登録有形文化財 1 号館 (1934 年竣工)

ざっくばらん「現役大学院ボクサーに聞く」

WBO AP フライ級チャンピオン 坂本真宏選手 (工学部院生)

特集 [市大の思い出] 新卒業生の声

Osaka City University Alumni



 **HANWA**CO., LTD.

ロケ地：オオサカホイール（日本最大級の高さ123m。全ゴンドラがシースルー。設計・制作、阪和興業。）

ハートを動かす、商社へ。

鉄鋼を中心に、金属原料、非鉄金属、食品、
石油・化成品、木材、機械など。
私たちは、世界中の「モノ」を動かしながら、
その先にある感動をうみだすことを心がけています。

STEADY SPEEDY STRATEGIC
SUSTAINABLE な収益体質と経営基盤の強化

 **阪和興業株式会社**

目 次

有恒会報との合冊と広報の取組み	同窓会会長	児玉隆夫	2
「大阪の知ーグローバル視野と最先端から見る大阪」	副学長	井上 徹	3
新大学の実現に向けての第1歩	新法人設立準備室長	川上 悟	4
メタセコイアと大阪市立大学(上)	都市研究プラザ 副所長	岡野 浩	5
■ 特別インタビュー「ざっくばらん」坂本真宏(本学工学研究修士課程)			6
■ 学園だより			8
平成29年度卒業式・学位記授与式(3月22日)平成30年度入学式(4月5日)			
大学人事一覧(平成30年度)& 大学関連ニュース			
特集「市大の思い出」新卒業生の声			
■ 同窓会ニュース			17
第12回全国支部代表者会議(3月10日)			
五代友厚記念事業の取組みと寄付金のお願い			
工学部第29回評議員会及びキャンパス交流会(2月24日)			
平成30年度医学部新入生入学祝賀会(4月5日)			
■ 論壇・随想			21
五代友厚に寄せる思いと縁(満園健士郎・商昭56卒)			
ミュオグラフィとアート(中島裕司・法昭55卒)			
教育現場から見た大学論(景山滋夫・文昭62卒)			
学術論文掲載までの険しい道のり(保科あずさ・医平19卒)			
■ 支部だより			25
宝塚支部総会、大阪南支部臨時総会、京滋支部12月例会、徳島支部総会、			
支部連絡先一覧表(国内、海外)			
■ 会員のひろば			28
クラブOB会・同期会・ゼミOB会・同好会			
■ 同窓短信			36
久保多 信夫(経昭33卒)・加藤 修(法昭43卒)・橋本彰男(商昭38卒)・松井みさき(経平7卒)			
原 卓朗(商Ⅱ 平20卒)・西尾雅一(経昭34卒)・山下 翔(経平20卒)・山本榮三(商昭32卒)			
■ 読者の声			38
■ 同窓生の図書紹介			40
■ 追悼のことば			42
■ 投稿規程			48
■ 編集後記			48

有恒会報との合冊と広報の取組み

大阪市立大学同窓会 会長 児玉隆夫



今回から市大のすべての卒業生の皆さんにこのような冊子体の会報をお届けすることができるようになりました。全学同窓会は発足して現在6年目を迎えています。が、これまでは同窓会報をタブロイド判で年3回発行してまいりました。このタブロイド判での会報は15号で終了し、それを引き継ぐ形でこれからはこのような冊子体の会報を年2回発行してまいります。

全学同窓会では充実した内容の会報を卒業生の皆さんにお届けすることが発足時からの念願でありました。しかし、当時すでに有恒会では「有恒会報」という優れた内容の会報を60年以上にわたって年3回発行されており、そのほかにも医学部と工学部の同窓会では独自の会報が発行されていました。

このような状況の中で全学同窓会の会報をどのような形で実現できるかをこの間模索してまいりましたが、この度、有恒会のご理解を得てこのような両者が融合する形

で実現することができました。有恒会およびご尽力いただいた編集委員の皆さんに心から感謝申し上げます。なお、医学部および工学部同窓会の会報は内容の専門性もあり、これまで通り発行されます。

近年の広報は電子媒体を用いたものがますます主流になって参りましたが、市大卒業生全体のことを考えますと紙媒体による広報も欠かすことができません。今後は、有恒会と全学同窓会の編集委員が協力して、視野を一層広げて会報の発行を行ってまいります。それと同時に同窓会のホームページを通じて、全学同窓会だけでなく、各学部等同窓会および全国各支部の活動状況など、豊富な内容を盛り込んで情報発信も行っています。毎月発行されるメールマガジンも含めて、是非こちらの方もご覧いただければと思います。

ここ数年、私たち市大卒業生は府大との統合問題に気を揉んでまいりましたが、今年に入って法人の統合が決定されました。大学の統合へ進むかどうかはまだ分かりませんが、その将来を見据えつつ、同窓会としては市大卒業生の結束の拠点として、今後とも活発な活動を続けてまいります。皆様のご協力を切にお願いする次第です。

「有恒」の由来について

この会報誌の呼称は、文系四学部(商・経・法・文)の会報誌として

200号を超える歴史と伝統に支えられた有恒会報の「有恒」です。

因みに、「有恒」は孟子の言葉(無恒産而有恒心者惟士為能)に由来します。

「有恒」は「恒心(常に変わらない正しい心)を有する者」を意味し、

大阪市立大学同窓会では

「物事に動じず、揺るぎのない高い志を持った人達の集まり」の

会報として永くあり続けたいと願っています。

(編集人)



学長特命科目

「大阪の知 ―グローバル視野と最先端から見る大阪―」

大阪市立大学副学長 井上 徹



大阪市立大学では、第二期中期計画において、重点三戦略として、「シンクタンク機能強化、『都市科学』分野の教育・研究・社会貢献」、「専門性の高い社会人の育成」とともに、「国際力の強化」を掲げ、全学的な国際力強化の取組みを推進してきました。教育分野ではこの国際戦略の一環として、グローバルな視野から大阪という地域を捉え、国際化に柔軟に対応できるような人材へと成長することを期待して、平成27年度より、学長特命科目「大阪学―グローバル視野から見る大阪―」（「大阪学」と略称）を開設しました（全学共通教育・総合教育科目A「特別枠」）。「大阪学」の意義は、2年間の試行の間に、急速に変貌を遂げているグローバル社会でどのように生き抜くかという問題に強い関心を抱く学生によく周知され、大きな関心を集めました。その成果に鑑みて、平成29年度からは、名称を「大阪の知―グローバル視野と最先端から見る大阪―」（「大阪の知」と略称）と変えて、正式にカリキュラムのなかに定位することとなりました。

平成29年度の「大阪の知」の授業の提供に際しては、「大阪学」の方針を受け継いで、世界で活躍する社会人、国内外に誇る教育研究成果を上げている市大の教員を講師として、グローバルと最先端をキーワードに、大阪との繋がりを念頭に置いて、オムニバス形式で授業を開いていただきました。学外からお招きした社会人講師は、相良暁（小野薬品工業株式会社・代表取締役社長）、植田健三（リロ・パナソニックエクスセルインターナショナル株式会社・顧問）、高部昭久（株式会社ダイセル研究開発本部執行役員・研究開発本部副本部長）、加茂みどり（大阪ガス株式会社エネルギー文化研究所・主席研究員）、松下直樹（アシックスジャパン株式会社・取締役）、青木豊彦（株式会社アオキ・会長）、柳本品一（一般社団法人アスリートネットワーク・理事長）、浦部喜行（堺市市長公室広報部・シティプロモーション担当課長）、田中清剛（大阪市・副市長）、上田理恵子（株式会社マザーネット・代表取締役社長）、以上10名の方々です。大阪だけでなく国際的に活動している企業や団体、自治体から、それぞれの分野を代表する講師に、企業が直面する諸課題、国際戦略、新規事業

の展開、高齢化社会への対応、ベンチャービジネス、グローバル社会の中での自治体の役割など多方面から、学生に刺激を与えていただくことができました。また学内からも、荒川哲男学長をはじめとして、大畑健治（医学研究科・教授）、南繁行（大阪市立大学複合先端研究機構・特任教授）の両先生に人生の指針、最先端の科学について学生に教授していただきました。

「大阪の知」の授業は毎回70～80名の学生が受講しました。授業では、これまで以上に熱心に毎回の講師の話に耳を傾け、質問する学生が多かったと聞いています。また正規の受講学生の他に、いわゆる「モグリ」の学生が起業やスポーツなどに関連する授業に出席していたのも本年度の目立った特徴でした。最近、大阪にはアジアのみでなく、欧米からの観光客も急増しており、外国人観光客と接触し、対話する機会が増えたことが国際化への関心を呼び起こし、またグローバル化、産業構造の変化のなかでチャレンジ精神をもつ学生が育ってきたことが背景にあるのかもしれません。

「大阪学」の開設・運営には、大阪市立大学同窓会及び有恒会の支援を頂戴しています。改めて関係各位に謝意を表させていただきます。



新大学の実現に向けての第1歩

公立大学法人大阪市立大学・公立大学法人大阪府立大学
新法人設立準備室長 川上 悟(商・昭59年卒)



大阪市立大学と大阪府立大学を運営するそれぞれの法人を統合する議案について、大阪府議会で昨年11月に可決され、大阪市議会においても本年2月に可決されました。

これにより2大学1高専を運営する新法人「公立大学法人大阪」が設立されることとなりました。新法人設立時期は総務省、文科省への認可申請手続きを経て2019年4月に予定されています。

現在、新法人設立に向けて新法人の組織、運営体制、給与制度を始めとする各種制度の設計などの検討・準備を進めているところであります。

新法人の組織・運営体制の基本的な考え方についてですが、現行では市立大学、府立大学とも理事長が学長を兼務しています。新法人では理事長と学長を分離し理事長は法人経営に対してマネジメント力を発揮し、学長は教育研究の推進に対してリーダーシップを発揮するとともに、役員については学外人材を積極的に登用し、透明性を確保し、民間の発想やノウハウを積極的に取り入れ法人運営に反映していくこととしています。

この新法人が2大学の運営をしながら2022年に2大学を統合し新大学の実現をめざすこととなりますが、大学統

合するためには改めて府・市両議会での関連議案の可決が必要となります。

大学統合については府大、市大のキャンパスは現状のまま、学部・学域もただ単にくっただけというような形式的な大学統合であればむしろ新大学のプレゼンスは今より下がることが危惧されます。魅力ある新大学の実現のためには、新大学に対して市民(受験生)や教職員が希望と期待が持てるような新大学の姿を提示する必要があると考えます。今後、府・市とも連携しながら検討を進めて行くことになりますが、キャンパスについては府・市とともに都心拠点化の方向性を打ち出しております。その実現のためにはかなりの財源が必要となります。キャンパス問題に限らず魅力ある新大学の実現のためには相当のインシヤルコスト及びランニングコストが必要であり、大学も自助努力はしますが、設立団体である府・市に対して財源措置を粘り強く求めていく必要があると考えております。また大学統合は、キャンパス問題に加えて、学部・学域などの教育研究体制の再編、カリキュラム、入試科目の検討など大きな課題が山積しております。

いずれにしても大学統合により1+1が3にも4にもなるような新大学を目指して検討を進めて行く必要があると考えますが、その第1歩としてまずは2019年4月にスムーズに新法人に移行できるよう準備を進めてまいります。

今後とも卒業生の皆様のご理解ご支援をお願いいたします。



メタセコイアと大阪市立大学(上) 昭和天皇と歌会始、今上天皇とのかかわり

都市研究プラザ 副所長 岡野 浩



はじめに

秋篠宮殿下は2017年6月、日本植物園協会年次大会に総裁としての出席されるため、杉本キャンパスと附属植物園(交野市・私市)を訪問され、苗木として日本で最も古いメタセコイ

アの下で写真を撮られた。「昭和天皇が愛された」メタセコイアの下で撮られた秋篠宮様の写真は、私市でも大きな反響を呼んだ。

本号では、昭和天皇および今上天皇とメタセコイアとの繋がりについて紹介し、次号では皇太子が留学されたオックスフォード大学とメタセコイアとの関わり、さらには本学の同大学との国際交流活動にも触れてみたい。

1. 昭和天皇とメタセコイア

昭和天皇が学習院初等科を卒業された1914年、東宮御学問所において倫理・歴史・地理・国語・漢文・理科・数学・仏語・馬術・武課などの帝王学を学ばれる。中でも大きな関心を持たれた科目が理科(生物学)であった。1929年以降、赤坂離宮(現在・迎賓館)の生物学御研究所で本格的な生物学研究を開始されるとともに、26冊もの著作を出版された。

戦後の占領下、スタンフォード大学教授(古植物学)でGHQ天然資源局長だったH. スケンク氏は、生物学者の昭和天皇と専門的な意見交換するために少なくとも2回は会合を持った。

三木教授が発見・命名したメタセコイアが生きのまま中国の四川省・利川(現在は湖北省)で発見されたという情報が戦前から研究仲間であった胡先驌教授(北京師範大)からもたらされると、R. チェイニー教授は現地に赴き、種子をパークレーに持ち帰って栽培し、学者として尊敬していた



加州大パークレー校の R. チェイニー教授から贈られたメタセコイアと吹上御苑での昭和天皇(Daily Californian 誌)

昭和天皇に苗を送った(『昭和天皇実録』を参照)。

昭和天皇は、最後となる歌会始(1987年、お題は「木」)において、メタセコイアの和名「あけぼのすぎ」を用いて「わが国のたちなほり来し年々にあけぼのすぎの木はのびにけり」と歌われた。皇太子(現今上天皇)がメタセコイアの枝を持参され、入院中の昭和天皇を見舞われた。

また、東京・立川の昭和記念館には、昭和天皇にご進講されるなど関係の深かった牧野富太郎、南方熊楠、三木茂の展示がなされていたが、三木のものだけが今もなお残されている。さらには、昭和天皇の机上の手に取りやすいところには三木茂『メタセコイア: 生ける化石植物』が収められていることも注目される。

(注) 三木茂は大阪市立大学教授・理学部附属植物園長。

「セコイア」(常緑樹)などの化石の中に落葉樹の化石を発見し、メタセコイアと命名した。

2. 今上天皇・皇后とメタセコイア

今上天皇のご成婚にまつわるものとして、東京ローンテニスクラブでお手植されたメタセコイアがある。上智大学・聖イグナチオ教会の正面玄関にある2本のメタセコイア、およびその向かい側



東京ローンテニスクラブでメタセコイアがお手植されたことを示すラベル

のニコラ・バレ修道院のメタセコイアは、信者であった美智子皇后のお母様の依頼で植樹されたものとされる。な



今上天皇より大阪市大・私市植物園に贈呈されたメタセコイアの苗木

お、修道院の隣にある雙葉学園の小学校は皇后の出身校である。

また、2017年6月には、序で述べた日本植物園協会年次大会での秋篠宮殿下によるお手植えのため、今上天皇から私市植物園にメタセコイアの苗木が贈られた。

(続く)



現役大学院ボクサーに聞く

WBO・AP (アジアパシフィック) フライ級チャンピオン 坂本真宏さん (本学工学研究科修士課程)



本学で始めてボクシングチャンピオンが誕生した。その人は坂本真宏さん (26才) です。

3月8日、同窓会事務局にて大学院で勉学のかたわらチャンピオンに至った経緯と今後の抱負などを語っていただいた。

インタビュアーは学生記者の村山健太さん (工学部3回生) と加藤菜々子さん (経済学部3回生)。

■ボクシングを始めたきっかけからお願いします。

坂本 小学生と中学生のころは野球部に所属しており、進学先の高校に野球部がなく、高2のころ友達に誘われてキックボクシングを始めました。格闘技はよくテレビで見ましたし、好きでした。本当は、ボクシングをやりたいかったんですが、家から通える近い場所にあるのがキックボクシングのジムだったのでそこにしました。当時は友達と遊び感覚で通っていました。その中で、格闘技って楽しいなと思えるようになってきたんですね。だけどやはり、ボクシングがやりたいかったので、大学進学と同時にキックボクシングは辞めて、大学で本格的にボクシングを始めました。

■プロに移られたのは大学院にあがった時ですが、その点について。

坂本 そうですね。ボクシングを本気で続ける気持ちになった時、プロの方とスパークリングと一緒に練習しているときに、「(坂本選手の)プレースタイルはプロ向きや」と言われたことですかね。プロになるとラウンド数も増えますし、グローブの厚さも変わってきたりします。また、仲良くなったプロの選手の応援に行ったとき試合をされている姿を見て「これはかっこいいな」と感動し、プロを志願しました。

■大学院への勉強はどのようにされていたのですか。

坂本 ボクシングでの練習は基本的に一日に2～3時間しかなく朝起きて走り、夜ジムで練習をします。実際ボクシングの試合時間は36分で、この時間を

しっかり動くことができれば勝てるのが出来ます。日中の時間はその代わり空いてくるのでその間に勉強をしていました。他のプロスポーツと違い、勉強との両立は比較的にし易いといえますね。

■両立していく上で苦労されたことは何ですか。

坂本 減量している時です。減量期間は一か月ほどありほとんど食事をとらないので頭が回らなくなってやらなあかんこととかを忘れてしまったりとかありました。今は気にしなくなりましたが、研究室でのほかの学生たちの食べ物のおいとかが気になりましたね。

■坂本選手が一番怖かった経験は何ですか。

坂本 やられるって思った時です。全日本新人王で戦っている試合で優勢に進んでいたんですが、1Rの終わりにパンチをもらって、一瞬視界が暗くなって目を開いたら星が舞っていました。さらに、足ががくがくと震えてきて、「これはあかん」と思い、必死にディフェンスをして、そのラウンドは乗り切りました。この時は、本当に負けそうになりそうで、怖かったですね。

■今まで、ボクシングを止めたいと思ったことはありますか。

坂本 正直ありますね。一回プロで新人王をとって2016年の7月の試合に向けて練習をしているとき、普段通りスパークリングをしていたら、前から痛いと思っていたわき腹に、パンチを叩き込まれ激痛が走りました。その時の激痛が片膝をついてしまうほどで、病院で診てもらったらあばら骨が剥離骨折を起こしていました。その時は本当にボクシングやめようかなって思いました。

また(プロでは)こういう状態でも試合をやらないといけないんだなって思いました。と、同時にこれで負けたら止めようと思いました。だけど、その試合で勝ったので今の自分があります。そのあとも会長がアジアタイトルマッチなど



F級1位の賞状を持つ坂本君



大会を組んでくれて今につないでくれてるんだと思い、感謝しています。

■アジアタイトルマッチでは初めて敗けたわけですが、その時は如何でしたか。

坂本 とても悔しかったですね。そこで、再戦の申し込みをしたんですが、木村選手が不調時であったので再戦のめども立っておらず、また、就職活動の時期でもあったので就職を契機にボクシングを止めようかなと思ったこともありました。

そんな時にライバルの木村選手が世界チャンピオンに挑戦するという発表があったんです。僕としては、アジアタイトルマッチで再戦するつもりだったのでがっかりしました。更に驚いたことは、木村選手が相手は中国でオリンピック2連覇のスター選手で、かなり強い選手だったんですが倒れてしまって、世界チャンピオンになってしまったんです。ほんの数か月前までは、実力差はあったんですが、僕と接戦をしていた選手だったんで、木村選手にリベンジしたいという気持ちになりました。今は、木村選手を倒すことが目標です。



本年4月1日、坂本選手は同級3位のウィチャー・ブーライカオ(タイ)を6回KOで下し、初防衛に成功しました。
現在、WBOフライ級世界ランキングは7位で、
今後は世界王座を目指します。



■今、坂本選手にとってボクシングとは何ですか。

坂本 今しか出来ないことです。長くても35歳くらいまでで選手としてのピークは30歳と短いです。WBOアジアチャンピオンになれたのは、試合を組んでくれた会長や、応援に来てくれた皆さん、対戦してくれた相手の方のおかげもあります。その人たちから世界チャンピオンになってほしいという声をかけてくださるのでその人たちの思いも背負っているんで、今を逃すと挑戦できなくなってしまうことが怖いです。

■読者の皆さんに一言

坂本 大学の方にはOB,OG現役の方にも期待していただいているので在学中に世界チャンピオンになって大阪市立大学の明るいニュースになりたいですね。国公立大学では一人も世界チャンピオンがいないので是非なりたいです。

■長時間にわたり有難うございました。4月の防衛戦に頑張ってください。



坂本真宏(さかもと まさひろ)

堺市出身

プロボクサー(フライ級)通算 12 勝(7KO)1 敗

2015 年全国フライ級新人王

2017 年 WBO アジア太平洋フライ級王座獲得

2018 年 WBO アジア太平洋同級で初防衛

工学研究科修士課程機械物理系専攻 2 年

材料物性工学研究室で酸化チタンの研究を行っている



平成29年度 大阪市立大学 卒業式・学位記授与式

平成29年度卒業式・学位記授与式が3月22日、大阪市立体育館で行われた。29年度は学士の学位を授与される者は1474名、修士の学位を授与される者は469名、博士の学位を授与される者は70名、法務博士の学位を授与される者は14名、副専攻の修了生は30名であった。

式で荒川哲男学長は「グローバルな人材になってほしい。グローバルな人というのは、ただ単に英語が喋れるだけではなく、世界の人から尊敬される人物になるということである。このことを胸に止めて世界に羽ばたいてほしい」と卒業生に言葉を送った。



次に、本学の同窓会会長である児玉隆夫会長は卒業生に同窓会について話された。「全国にたくさんの同窓会の方がいます。さらに、国内だけでなく海外にも同窓生はいます。勤務先で困ったことがあれば近くの同窓会の方を頼ってください。皆さんのお力になります」と話された。

最後に来賓祝辞、本学の合唱サークルの合唱団フリーデ、混声合唱団、グリークラブによる式歌斉唱をもって卒業式・学位記授与式は終了した。

(学生記者:村島健太・工学部2回生)

新しい市大生迎える 平成30年度入学式挙行

4月5日、大阪中央体育館にて本学の平成30年度入学式が挙行された。今年度の入学者数は、学部では商学部240名、経済学部229名、法学部171名、文学部173名、理学部164名、工学部298名、医学部医学科95名、医学部看護学科55名、生活科学部128名、計1553名であった。

式では、まず本学の荒川哲男学長が入学生に向けて歓迎の挨拶を述べた。荒川学長は挨拶の中で、「最近様々な分野において若者の活躍が目立ち、彼らのポテンシャルを感じる事が多い。みなさんも社会で活躍する若者になってほしい。そのためには日本で培われてきた理念を大事にすることが必要だが、同時にそれを伝えるツールとしての英語も必要である。これからの大学生活の中で英語力を磨いていってほしい。大学側としてもそのための機会を十分に提供したい」と話した。また2025年の開催を目指す大阪万博の招致活動についても触れ、「万博の招致を成功させるためには、学生たちの盛り上がりも必要不可欠である。是非皆さんも活動に参加して、盛り上げていってほしい」と語った。

続いて来賓祝辞として吉村洋文大阪市長が登壇し、「現在本学の特色をさらに伸ばすために、シンクタンク機能を強化し皆さんの誇りになる大学となるよう事業を進めている。皆さんには本学で学ぶ中で自由と進取の気風を感じ取ってもらうことで、失敗を恐れず挑戦し続け、世界を引っ張る人材になってほしい」と話した。また学長の挨拶と同じく大阪万博招致についても触れ、「若い皆さんも参加できる万博を目指して準備を進めているので、皆さんにどんどん参加してもらいたい」と語った。

式はその後祝電披露、学部入学生・大学院入学生の各代表による入学生代表宣誓、本学「合唱団フリーデ」「混声合唱団」「グリークラブ」による式歌斉唱、本学「交響楽団」による音楽演奏と続き、滞りなく終了した。

(学生記者:北村健太・経済学部4回生)



吉村市長の祝辞

大学人事一覧 (平成30年4月1日以降)

1. 役員等(公立大学法人関係)

理事長	荒川 哲男	
副理事長	神田 幹夫	(新任)
理事	橋本 文彦	(新任)
理事(教育・学生担当)	櫻木 弘之	
理事(研究・国際交流・情報担当)	平田 一人	(新任)
理事(病院経営担当)	岡本 直之	(非常勤、新任)
理事(渉外担当)	白井 弘	(非常勤)
監事(財務・会計担当)	岸本 佳宏	(非常勤)

2. 副学長、特命副学長、学長補佐

副学長(教育・学生担当)	橋本 文彦	(新任)
副学長(研究・情報担当)	櫻木 弘之	
副学長(男女共同参画担当)	池上 知子	
副学長(国際交流担当)	小田中 彰浩	(新任)
特命副学長(社会人大学院担当)	桐山 孝信	
特命副学長(人事委員会担当)	保尊 隆享	
特命副学長(教育改革担当)	永村 一雄	(新任)

学長補佐 (地域貢献・産学官連携・知的財産担当)	宮野 道雄	
学長補佐	鈴木 祐道	

3. 研究科長・学部長及び医学部付属病院長

経営研究科長・商学部長	向山 敦夫	
経済学研究科長・経済学部長	中村 健吾	
法学研究科長・法学部長	勝田 卓也	
文学研究科長・文学部長	仁木 宏	
理学研究科長・理学部長	坪田 誠	(新任)
工学研究科長・工学部長	長崎 健	(新任)
医学研究科長・医学部長	大畑 建治	
看護学研究科長	松田 光信	
生活科学研究科長・生活科学部	岡田 進一	(新任)
創造都市研究科長	有賀 敏之	
都市経営研究科長	小長谷 一之	(新任)
医学部付属病院長	平田 一人	(新任)



大学ニュース

「夢基金」と「ふるさと寄付金」

大学サポーター交流室では、卒業生をはじめ保護者、さらには幅広く本学を応援して下さる皆様に「大学サポーター」と位置づけ、ホームカミングデーの開催や各種の情報発信などの様々な取組を展開しています。

また、教育・研究をはじめ様々な分野で活用される寄附金の取組みも重要な業務であり、「大阪市立大学夢基金」と「大阪市ふるさと寄附金」が二本柱となっています。

「夢基金」は、7つの寄付目的が選択でき、寄附者のご意向を反映できるものとなっています(「大学の発展」「課外活動施設」「課外活動団体支援」「全天候型グラウンド」「グローバル人材」「社会連携」「医療・保健推進」)。

「ふるさと寄附金」はふるさと納税制度を活用し、大阪市を通して本学を支援していただくもので、「学生ホールの整備」や「グローバル人材の育成」に役立てられます。

(大学サポーター交流室)

THE世界大学ランキング日本版2018

世界大学ランキングの中で注目度の高いイギリスのTHE(タイムズハイヤーエデュケーション)が日本版2018を発表しました。日本版は、昨年からはまったもので世界版と比べてより「教育」にシフトした指標のランキングであることから、世界版ではランクインしていない大学が上位に入るなど、世界版とは異なる様相を見せています。

本学は、総合43位、関西で8位、公立大学4位という結果でした。総合順位は昨年の47位からやや上昇しているものの、「教育リソース」、「教育充実度」、「教育成果」、「国際性」の4つの指標のうち、「国際性」が115位(昨年は150位以下)と昨年同様に他の指標に比べて低い結果に終わっています。

THEをはじめとする世界大学ランキングは、大学間協定締結先の選定や、留学先選定などの参考情報となっていますが、この日本版ランキングは、主に高校における進路指導等において、偏差値とは異なる指標として活用されつつあるようです。

各種ランキングは、一つの目安であり、荒川学長のもと全学をあげて教育、研究により一層注力し、本学の理念である「優れた人材育成と真理の探究」をゆるがぬ目標として取り組むことが重要です。その実現のためには様々な場面において卒業生の皆様のご支援・ご協力が必要不可欠です。今後共変わらぬご指導の程宜しくお願い致します。

(広報室)

「市大ストレッチ」のご紹介

「市大ストレッチ」は、都市・健康スポーツ研究センターの横山久代准教授と広報室が共同で制作したもので、主に学生・教職員の健康増進を目的とし、授業後などに実施できるよう、イスに座ったまま体をほぐすことができることをコンセプトにしています。横山准教授が、授業中における学生の姿勢の悪さを危惧したことから着想を得て考案しました。



多くのメディアに取り上げられ、直近では、2018年2月8日にテレビ東京の「主治医が見つかる診療所」で特集が組まれ、全国ネットで放映されました。放映後、動画再生回数が大幅に増え、今や約4万回超えと大きな反響をいただき、一般の方々の健康増進にもつながっています。

「スマホやPCの使い過ぎで、将来VDT障害に伴う眼精疲労やメンタル面への影響が懸念されます。市大ストレッチを通じて、セルフケアの術を身につけてもらいたい」(横山先生)。

簡単に始めることができますので、ぜひみなさまもチャレンジしてください！

「市大ストレッチ」動画URL <https://youtu.be/mK-Sn3LvXPU>

(広報室)

2018年度生の就職活動状況と今後について

2018年度生(現4回生)の就職活動では、昨年に引き続き、近年稀に見る売り手市場となっています。これに加え昨年7月には1Dayインターンシップが解禁となり、このインターンシップを活用した学生の囲い込みが進んだことや、経団連指針に縛られない新興・外資系企業に対抗すべく各企業が採用活動を早めたことなどから、採用活動全体が早期化しています。メディア発表によると4月時点で全学生の約20%(前年比5%増)に及ぶ学生が既に内々定・内定を得ていると言われており、本学の学生においても同様の傾向が伺えます。また、2020年度生(現2回生)については経団連もこれまでの指針を見直すと報道されたところであり、ここ数年定型化していた就職環境が大きく変わることが予想されます。今後訪れるこの大きな変化に対応すべく、就職支援室では学生に時宜に応じた情報を提供できるよう、周知ツールの導入や各学部就職担当教員との連携強化に取り組んでいきますので、皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(就職支援室)

国際センターの取組みと活動状況

大阪市立大学副学長(国際交流担当)
小田中章浩

私は今年四月から国際交流担当副学長を拝命し、本学の国際化の進展に一層尽力する重責を負うこととなりました。私が国際センター所長となったのは昨年の十月のことですが、この間、中国を二回、台湾を二回訪問しました。そこで特に印象に残ったのは、Student Ambassadorと言って、訪問先の大学が我々の学内ツアーを学生に任せてしまい、しかも学生はそ



れを流暢な英語で行うことがごく普通に行われていたことです。すなわち大学の国際化に関して教職員だけが旗を振るのではなく、学生もこれに参加するという体制です。荒川学長もこれをご覧になって大きな感銘を受け、本学も近い将来このシステムを導入すべく努力しているところです。

正直申しまして、本学の国際化は必ずしも満足すべき状況にはありません。最近、日本の学生の内向き志向が言われますが、本学も例外ではありません。もちろん在学中に積極的に海外に出て視野を広めようとする学生は、一定数存在します。しかし私の見るところ、その数は学部生のせいぜい一割ではないかと思われます。全ての学生が「国際化」する必要はないでしょうが、せめて彼らの半分位はグローバルな視点を持たないとこの国の将来はどうなるのか、私は非常に危機感を抱いています。上述のStudent Ambassadorだけでなく、留学生の積極的な招致、あるいは海外インターンシップを含めた在学生の海外研修など、使える手は全て使って彼らが世界に出ていく後押しをしなければなりません。有恒会の皆様におかれましては、たとえば三井ボランティアネットワーク事業団に所属する本学同窓生が留学生との交流に積極的に取り組むなど、本学の国際交流に貢献して下さいとお聞きしています。諸先輩方の貴重な経験とお知恵を拝借し、本学の国際化の進展のために努めて参りたいと考えております。どうかよろしくお願いします。

公開講座 シンポジウム「秀吉の三都」

大阪市立大学と公益財団法人大阪市博物館協会は、包括連携協定に基づき、大阪市博物館協会所属の博物館等の学芸員と本学の教員とが、人文科学・自然科学分野を対象とし、共同研究や教育を行っています。

平成30年1月8日(月・祝)大阪市立大学杉本キャンパスにて、包括連携協定企画として、シンポジウム「秀吉の三都」を開催しました。また本シンポジウムは本学大学院文学研究科の仁木教授が研究代表を務める科学研究費補助金・基盤研究A「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」の成果の一部を報告するものです。

当日は、300名を超す多くの受講がありました。

本学宮野学長補佐による開会の挨拶からはじまり、第1部では講演会として、秀吉の整備した三都(大坂・京都(聚楽第)・伏見)について、4名の講師たちによる最新の研究成果報告は次の通りです。

1. 豊臣期首都論

谷 徹也(京都大学大学院文学研究科助教)

秀吉が権力を掌握していくプロセスを追いつつ、多くの史料を使用し、その時々を整備した各首都の役割、性質を分析しました。



開催にあたり、初日に本学田中記念館で開催式が行われた。NPO法人大阪府日中友好協会の江原さんは「日中平和友好条約の締結から70年という節目の年に、日本と中国の友好を深めることができ嬉しいです。ご尽力してくれた人に感謝しています。」と語った。本学留学生の馬さんは、「この交流展の伝統を継承するため、部員は主体的に頑張っています。これからこのような人たちが日本と中国の文化交流を深める主体となってくれるでしょう」との話があった。



展示会場(みちまちスクエア)

実際に作品展示が行われているみちまちスクエアには、絵画だけではなく書道やTシャツなども展示されていた。文化の違いが窺える作品もあ数多くあった。

(学生記者:加藤菜々子・経済3回生)

大阪市立大学生生活科学シンポジウム 超高齢社会における課題を探る

春の訪れを告げる工学部前の木蓮の花が咲き誇る2018年3月17日(土) 大阪市立大学学術情報センター1階文化交流室にて大阪市立大学生生活科学シンポジウム『超高齢社会における課題を探る』が開催されました。

開場前より多くの市民の方々が続々とお越しになり、本シンポジウムへの関心の高さが伺われる中、永村一雄生活科学研究科長より、生活に関わる課題の解決を目指す生活科学研究科の研究目的と超高齢社会の課題に向けた本シンポジウムの開催趣旨についての説明がありました。

本研究科客員教授 松本診療所院長 松本一生先生による「地域における認知症高齢者の生活とケアの現状と課題」についての基調講演では、地域に暮らす認知症高齢者の生活の実態や認知症の病型や程度を理解したうえでのケアの必要性とその課題など、認知症高齢者の地域生活の実態とケアの現状から、さまざまな課題のあることが提示されました。

岡田進一副研究科長の司会のもと進められたシンポジ



2.秀吉の城下町の形

松尾信裕(大阪歴史博物館学芸員)

地籍図や発掘調査の結果をもとに、城下町を分析。町人地の形が全国的流通ネットワークの発展により堅町から横町に変化したことを指摘しました。

3.秀吉の城郭構造

中井 均(滋賀県立大学人間文化学部教授)

秀吉の築城した城について、城郭構造を総合的に分析し、政治的・軍事的といった都市の性質が、その構造にもあらわれていることを解説しました。

4.日本の中の「三都」

仁木 宏(本学大学院文学研究科教授)

16 世紀の日本において社会の本質的な変化があったことを踏まえて、豊臣期の大坂、京都(聚楽第、伏見)の役割、位置を見直し、とりわけ全国の流通の拠点へと成長した大坂について説明しました。

(大学社会連携課)

第4回日中大学学生芸術交流展

第4回交流展は3月29日から6日間、みちまちスクエアきたで行われた。美術部青桃会が、上海大学とともに芸術を通して文化を深め合うことを目的としている。他にも、大阪府立大学と神戸大学が参加した。



オープニング・セレモニー(田中記念館ホワイエ)



ウムでは、超高齢社会の課題解決に向けての取り組みの中から、岡田明教授による「高齢者の心身機能低下とモノづくり・環境づくり」、羽生大記教授による「高齢者のサルコペニアとロコモティブシンドローム」、鶴浦直子講師による「高齢者の地域生活を支える市民後見人制度」について近年の動向とその展望が報告されました。

超高齢社会に向けて、様々な研究分野による多角的なアプローチが今求められていることを実感するシンポジウムとなりました。課題に向かって このような機会を今後も継続して多くの方々と分かち合えることを願いつつ、盛会のうちに閉会の運びとなりました。ご登壇頂きました先生方、貴重なご報告をありがとうございました。

(生活科学研究科:篠田美紀)

「戦没学友の碑」献花の集い

第10回献花の集いは4月10日(火)杉本キャンパスに建立された「戦没学友の碑」の前で行われた。

昨年から大学と全学同窓会の共催で行われており、特に大学側からは植樹、環境整備など周辺のメンテナンスにご協力を頂いている。

今回も荒川学長、兄玉全学同窓会会長を始め、ご遺族、建立の方々、卒業生有志、有恒会運営本部委員などが集い、白菊を備え、しめやかに御霊のご冥福をお祈りした。

また、今年も南澁会(グリークラブOB)から8名の方が参列、「学生歌」海ゆかば」を霊前に捧げた。

昼食会では、ご出席の方々からご挨拶を頂き、ご遺族からの思い出と感謝のことばがあり、厳粛にかつ和やかなひとときを過ごした。



荒川学長あいさつ

教育後援会は学生のみなさんの「学ぶ喜び」を応援しています

大阪市立大学教育後援会 代表幹事 湯浅 勲

教育後援会は、保護者の皆様のご支援とご協力によって行っている様々な支援を通して、学生のみなさんの「学ぶ喜び」を応援しています。



大学での学びの中には、講義や実習などの授業での学び以外に、課外活動やボランティア活動などいろいろな学びの機会があります。教育後援会では、これらの活動をより活発に行なえるよう、また活動の強化育成するための「クラブ・サークル活動支援」や、施設の安全性を高めるための「クラブ・サークル特別支援」や伝統行事である『銀杏祭』、『ポート祭』などの「全学行事に対する助成」などの支援を行なうことにより、学生のみなさんの社会性や人間性の育成に努めております。また、グローバル化への学びに対する支援として、短期留学や国際学会などへの参加に必要な旅費補助やTOEIC・TOEFLおよびIELTSの受験料補助などを行なっています。さらに、本年度より、学生の自主的な活動に対して助成する「エッセヤー活動支援」も行なっています。これらの支援以外にも、学術情報総合センターへの図書の寄贈、憩いと交流の場のための施設や設備の大学への寄贈などの「教育環境整備支援」など学生生活の向上あるいは必要な支援を行なっています。

これからも教育後援会は、「がんばれ 市大生!—教育後援会は学生生活を全力でサポートします—」のキャッチフレーズの下、学生のみなさんが多様な経験をすることによって社会性や人間性を育み、そしてたくましく成長し、卒業後、社会のリーダーとして活躍できるよう応援してまいります。

ご支援・ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第127回ボート祭

第127回ボート祭が、桜ノ宮の大川にて5月19日、20日の二日間開催された。雨の予報にもかかわらず、両日とも過ごしやすい快晴となり、5月の気持ちの良い風を受けながら学生や教職員、市民による70艇ほどのボートが大川を駆け抜けた。

また、本学と大阪府立大学のそれぞれの学長を加えた2チームが競う「学長レース」も行われた。勝利を納めた荒川学長は「やはりチームワークが重要ですね。今回は府大の辻学長が欠席なされたので、もし参加されていたら結果は違っていたかもしれません」と話した。

大川に隣接したステージでは、青桃会によるライブアート、応援団の演舞、マジックサークルHATによるマジックや落語研究会による漫才などで盛り上がりを見せていた。

(加藤菜々子・経済学部3年生)



熱戦が繰り広げられた対抗戦



荒川学長率いる市大学長チーム



開設記念特別シンポジウム

大学院都市経営研究科

2018年4月から大学院に都市経営研究科が現在の創造都市研究科を基盤としてスタートする。

都市経営研究科はこれからの都市に必要なまちづくりとして公共政策、行政、ビジネス、医療、福祉など、更に地域の再生とマーケティング、都市計画、アート、公民連携、特に「イノベーション」と「サステナビリティ」をキーワードとした都市の再生と創造を目指すなど新たな研究教育拠点です。

今回、経営研究科の開設に当り、特別シンポジウム「小磯良平が描いた恒藤恭一大学の原点を見つめて」が5月25日、本学梅田サテライト文化交流センターホールで開催された。

このシンポジウムは、今井の肖像画が映し出す大学史を辿り、見つめ直す大阪市立大学の原点。都市経営研究科が大学院の船出の先にある大学全体の展望とは何かを考え、読み解くことを目的とする。

日本を代表する洋画家である小磯良平(1903～1988)は昭和期に肖像画の傑作を多く残したことで知られている。

当日は、荒川学長の開会挨拶に始まり、基調講演は桐山特命副学長の「大阪市立大学の原点から現点へー恒藤恭とその時代ー」などに続き、パネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションは、久末弥生教授(都市経営研究科)の司会で進められ、パネリストには本学から桐山孝信特命副学長、安竹貴彦法学研究科教授(大学史資料室長)、広川禎秀名誉教授(恒藤記念室特任教授)が出席した。

(編集部)



学園だより

特集

市大の 思い出

ラクロス部の思い出

商学部卒：中島愛理

この5年を振り返ると、私の思い出のほとんどを占めているのは男子ラクロス部のみんなと過ごした時間でした。

私は3回生の1年間を留学のため休学していたのですが、帰国後の2年間は特に内容の濃い日々を過ごしたと実感しています。それは、最上回生としてチーム改革に奮闘する動機、それに応えようと必死に頑張る後輩の姿を目の当たりにし、私自身も主体的に動くことを意識するようになったからだと思います。昨年度からは練習日数も週5日に増えましたが、辛さなど感じないくらい毎日部員に会えることが楽しみでした。毎夏に行われた合宿、1、2回生で参加する鹿島合宿、春の交流戦、そして一致団結して挑んだリーグ戦など特別な思い出はたくさんありますが、それと同じくらいチームのみんなと頑張った日々の練習も大切な思い出です。大学を卒業し、部活と関わることは減ってしましますが、OGとしてチームのためにできることを見つけ、サポートしていきたいと思います。

リーグ戦での緊張感、3部に降格してしまったときの部員の涙、他愛もない会話で笑っていた日々の練習、私に様々な感情を抱かせ、たくさんの感動を与えてくれた部員には感謝しきれません。こうした様々な思い出や繋がりは、これから社会人として壁にぶつかっていく私の頑張る糧になると確信しています。



リーグ戦での勝利の様子

4年間を振り返ってみて

経済学部経済学科4年：小寺 知彦

大学4年間を振り返ってみて、充実した4年間であり、あっという間に過ぎてしまったという感想です。

僕はソフトテニス部に所属しており4年生の11月に引退するまで大半の時間をソフトテニスをして過ごしました。ソフトテニス部は元々人数が少なく、男女合わせて20人程で活動しています。少人数だからこそ全員個性があり、多くの時間を過ごし、楽しくソフトテニスができました。卒業することでその時間がなくなることはとても寂しく思います。

また男子は4部に所属しており関西の大学で丁度真ん中程だと思っています。そのリーグ戦で上の部に昇格できるように日々練習しました。時にはチーム全体が伸び悩み、リーグ降格の危機もありましたが、全員で目標を1つにすることで乗り越えてきました。最終的にリーグ昇格をすることはできていないのですが、チームとして1つになれたことは良い経験になったと思っています。

人生の中で1番時間のある大学生活にあえて部活動に入り本気でソフトテニスをしたことは全く後悔していません。また多くの支援をいただいているOBOGさん、色々なことを指導していただき、時には怒られることもあった先輩方、楽しくテニスをするを教えてくれた同期、後輩のみんなにはとても感謝しています。この経験を活かし、周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに社会人として活躍したいと思います。



私にとっての大学生活

法学部：木原季輝

私にとって、大学生活は学びの日々でした。高校まででは、知らなかった多くのことを知りました。特に、ゼミと部活において学べたと感じています。

大学では、高校までのように色々な学問を広く学ぶのではなく、基本的には一つの学問を深く学んでいきます。私は、大阪市立大学法学部において政治や法律を学びました。そして、その中で日本の社会保障について、興味を持ち、社会保障法ゼミに入りました。ゼミでは、日本の社会保障法について、座学だけでなく、実際にその問題について扱っている現場に行き話を聞くなどしました。特に、ゼミ合宿においては、発表のために市役所やNPOなどに話を聞きに行き、書物で文字を読むだけでは分からない現場の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。



市大の思い出

部活では、日本拳法部と茶道部に所属していました。どちらの部活でも多くのことを学びました。特に、部員の方のただ漫然と練習に参加するのではなく、日々工夫しながら練習に取り組む姿勢に刺激を受けました。そして、自分もそのようにありたいと思い、自分なりに努力をしました。この考えは社会人になってからも忘れずに心がけていきます。

大学生活は自分にとって有意義なものでした。そして、そのような期間を与えてくれた親に改めて感謝したいと思います。大学生活で過ごした日々を無駄にすることなく、これからも頑張っていきます。

旅立ちを控えて

文学部国語国文学コース：高野千帆

高校三年の秋。私の成績はあまり芳しくなく、模試でも市大合格は難しいとの判定が続いていたところです。模試会場が市大だった日の帰り、南部ストリート辺りには美しく色づいた葉っぱが散っていました。「これを市大合格のお守りにして頑張ろう」と思いついて、葉を拾って押し葉にし、勉強机に飾りました。この効果か、半年後なんとか市大文学部に合格できました。



大学生活はあっという間に過ぎていきました。アカペラサークルに入会し、毎日仲間たちと声を重ねました。国語国文学コースへ進み、くずし字に苦戦しながら古典文学を精読しました。空き時間には友人たちととりとめもない話を何時間も続けました。アルバイトを始め、飛行機にも新幹線にも乗り、車の免許を取り、行動範囲は一気に広がりましたが、その拠点はいつも市大キャンパスでした。毎日当たり前に通っていて気づきませんでした。私はたしかに四年分の愛着をこの学舎に積もらせていました。

先日の卒業式の後部屋を片付けていると、パリパリに乾燥した押し葉が出てきました。合格を誓ったあの葉です。社会人生活への不安でいっぱいなの今の私に、四年前の私は思い出させてくれました。自分の力で目標を達成したこと、その場所でかけがえのない日々を過ごしたこと。ありふれた大学生活でしたが、私にとっては大切な思い出です。市大で過ごしたこの四年間の思い出を胸に、春から新社会人として頑張っていこうと思います。

大学院の思い出

工学部：岡村優希

私は関西大学を卒業後、大阪市立大学大学院の工学研究科電子情報系専攻に進学しました。内部進学者がほとんどのなか、私のように外から来た人間を温かく迎えてくださった指導教



員の先生方や研究室の方々にとても感謝しています。修了を直前に迎えた今、より一層そう強くそう思います。物理学科から電子情報系専攻に進学したので最初はわからないことも多く不安でいっぱいでしたが、先輩たちは私にもわかりやすく自分の研究について教えてくれて非常に勉強になりました。学会での発表も行い、研究を通じて自身も成長できたと感じています。市大で学んだことを就職後も忘れずに理工系の人間として研究を通して社会貢献していきたいです。大学院の二年間を通して思うのは大阪市立大学の工学研究科はいい意味で学生と教員の距離が近い大学であったということです。例えば、春と冬にある研究室対抗のソフトボール大会などがその一例です。私も数理工学研究科の一員としてソフトボール大会に参加させていただき、他の研究室の人たちとともに汗を流したのは良い思い出です。「理論と実際との有機的な連結を重視する」という気風通り、学問に打ち込み、その一方で和気あいあいとスポーツで交流する二年間でした。

学生生活を振り返って

大学院理学研究科卒：鳥山陽平

私は、大学と大学院を合わせて6年間、市大生として学生生活を過ごしました。たくさんの思い出がありますが、その中で最も印象深いのが研究室生活です。4回生の時に配属が決まり、大学院と合わせて3年間過ごしました。



配属当初は、研究について、右も左もわからない状況だったので、先輩に質問ばかりしていました。また、研究の要領が悪く、先生に叱られることが多々ありました。たくさん挫折がありましたが、研究室の仲間と飲みに行ったり、遊びに行ったりすることで、心の支えとなり、さらに先生のアドバイスのおかげもあり、徐々に研究の進め方がわかり、自分の成長につながりました。実験の成功数も増えて、最終的には、いくつかの学会発表に立たせていただく機会もありました。その中には受賞できたものもあり、その時はとても嬉しく思いました。研究室に入って、本当によかったと思います。

卒業までに先生方、先輩後輩、友達などたくさんの方々の世話になり、私はみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを常に持ちながら、これからは自分が周りから感謝してもらえる人間になれるように、努力を惜しまず生きていきたいと思っています。

6年間ありがとうございました。

新附属病院長及び新研究科長の紹介

「安全で質の高い高度医療」を目指して 医学部附属病院 病院長 平田 一人

患者さんの安全を第一にし、「自分の家族なら如何するか?」という姿勢で診療に臨む必要がある。医療スタッフの独創性を発展させ、協調性や理解力を深め、多様性も尊重しチーム医療を充実させたい。地域医療体制の強化と大阪府民の健康寿命を推進し、病院経営基盤の安定と向上を目指したい。「患者さんを診る」のではなく「患者さんから学ぶ」という姿勢で、安全で質の高い高度医療を提供したいと考えています。



変革、そして工学研究科の可視化

工学研究科長 長崎 健

工学部・工学研究科では前任の故佐藤嘉洋研究科長の代より研究・教育・国際交流・人材確保などに関し変革の必要性を感じ議論を進めてきました。その中で、工学研究科教育研究センター・基盤研究費申請制度・後期博士課程研究奨学奨励金制度・工学教育改革検討委員会・リケ女応援サイトなどに代表される新たな施策を実施して来ました。今後も変革の流れを加速し、工学研究科の可視化を強化すべく職務に邁進していきたいと考えています。同窓生の皆さまは今後ともご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



理学を大阪から世界に向けて発信

理学研究科長 坪田 誠

このたび理学研究科長を拝命いたしました。理学部・理学研究科の主な使命は、総合大学である本学の理系の教育・研究の基盤を担い、科学技術の根幹を支え国際的に活躍できる人材を教育・輩出するとともに、大阪から世界に向けて第一線の研究成果を発信して自然科学の発展に寄与し本学のプレゼンスの向上に貢献することであると考えております。今後とも、同窓生の皆様のご支援を切にお願い申し上げます。



国際的な観点からのイノベーションを目指す 生活科学研究科長 岡田進一

本研究科では、3つの研究分野別大講座、学部で3つの学科、大学院で4つの専門別履修コースを設け、さらに、学際性を生かした学部学科・大学院の履修コースを超えた学際的な内容の講義も設けています。今後、教員、同窓生、大学院・学部学生がともに協力しながら国際的な観点から生活科学の研究を進めて参りたいと存じますので、ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



現代都市を再生するイノベーションとサステナビリティ

都市経営研究科長 小長谷一之

都市経営研究科(GSUM)は、現在の創造都市研究科(GSCC)を基盤としてスタートする専任教員21名の独立研究科で初年度71名の入学者を迎えました。先進国は人口減少・高齢化、産業空洞化等「都市危機の時代」で、行政・ビジネス・非営利活動のあらゆる分野で都市経営という概念が重要となっており、学際・複合の研究科の強みを活かし各種プロジェクト出版等教育研究を盛んにしていく所存です(<http://www.gsum.osaka-cu.ac.jp>をご覧ください)。



同窓会ニュース



五代友厚記念事業の取り組みと 寄付金ご協力のお願い

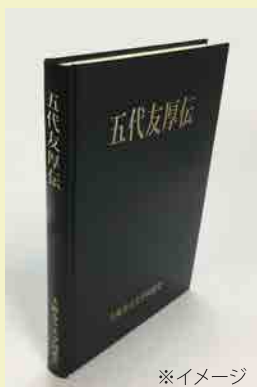
五代記念事業委員会では本年度の案件として次の3点に取り組んでおり、そのための活動資金が必要です。

卒業生の皆様には、寄付金のご協力をお願い致しますのでよろしくお願いします。

1)「五代友厚伝」の出版

五代友厚の足跡・業績などを史実に基づいて在学生や市大卒の若い層を中心に一般の方々にも読みやすく、分かり易い書物として出版する。

執筆者は八木孝昌氏(経昭41卒、文学博士、大阪教育文化振興財団理事)、出版は3年以内を目途とする。



※イメージ

2) ●大学への寄付講座「国際ビジネス演習」の開設

グローバル人材育成を目的に在学生約20名を対象として演習講座(2単位)を15回に分けて授業が行われる。

平成30年4月より開講。

●「海外インターンシップ」の実施

国際ビジネス演習受講者を対象に、成績優秀者を2018年から若干名を海外に派遣。

3)「五代友厚展示コーナー」の設置

学術情報総合センター1Fにある大学史資料室展示コーナーの一角に、五代友厚関連資料などパネル展示。

(五代友厚記念事業委員会)

第12回全国支部代表者会議開催

とき：平成30年3月10日(土)

ところ：田中記念館2階会議室(会議)

同1階ホワイエ(懇親会)

平成30年3月10日(土)13時半より田中記念館2階会議室において、「平成29年度有恒会支部代表者会議」を開催した。国内30支部のうち25支部34名、オブザーバーとして設立準備中の仮称北河内支部1名、総数35名が出席した。

開会の辞の後、尾山有恒会会長のご挨拶をいただき、その後牧野運営本部長の司会で議事を進行した。新規に設立された、南大阪支部、静岡支部、宮崎支部(今回は欠席)と設立準備中の北河内支部の紹介と、今回初めて参加された福岡支部、愛知支部の支部長の紹介が行われた。

その後、事前に各支部より回答いただいた「平成29年度活動実績・平成30年度活動計画」の資料より、顕著な活動を行われた支部より報告をいただいた。会員を増やすためには、幅広い年齢層の会員、特に若手と女性を取り込む必要がある。そのために、年に1回総会を開くだけではなく、分科会を作って少人数で安くて頻繁に会う機会を増やすのがいいのではないか、という提案がされた。

運営本部よりは会費納入率の低下の問題と新卒生歓迎会を各支部の総会に合わせて行うという報告があった。

荒川学長より、府大との統合の状況の説明と大学の広告塔としての学長の活動を伺った。最後に全学同窓会から全学同窓会報誌、五代プロジェクトの説明、京極副理事長より大学の近況報告と寄付金のお願いがあった。

支部総会終了後、場所を田中記念館1階ホワイエに移し、懇親パーティを行い、各支部の交流を図った。サプライズゲストでプロボクサー坂本真宏君(工M2)の世界チャンピオンへの挑戦決意を受け、荒川学長より力強い激励があった。会は大いに盛り上がり、支部長で初となる女性支部長の藤本支部長(福岡)の中締め挨拶で散会となった。



工学部 第29回評議員会及び 第12回キャンパス交流会開催報告

2月24日(土)午後2時より、学術情報総合センター1階文化交流室にて第29回評議員会が開催された。

小田一紀評議員(昭38土木)を議長に選出、(1)2017年度(第23期1年度)事業報告、(2)2017年度収支決算及び会計監査報告、(3)2018年度(第23期2年度)理事会役員案、(4)2018年度事業計画案、(5)2018年度予算案、(6)その他の議案を審議し全案件が承認された。

引き続き午後3時20分から第12回キャンパス交流会が開催され、工学部同窓会会長の黒山泰弘氏から「大阪の橋」をテーマとした約1時間の講演があり、午後4時30分から旧教養北食堂で懇親会が開催された。

工学研究科長職務代理長崎健氏、全学同窓会長児玉隆夫氏の挨拶の後、ご馳走に舌鼓を打ちながら親睦を深め、53名の参加者全員で逍遙歌「桜花爛漫」を合唱し熱気を残しつつお開きとなった。



第6回ビジネス交流会

平成30年1月27日文化交流センター「ホール」にて、第6回ビジネス交流会が開催された。

今回のゲストスピーカーは株式会社マザーネットの上田理恵子社長(昭和59年 生活科学部 被服学科卒)です。上田社長はダイキン工業に就職し17年間の勤務を経て現在の会社を設立、創業3年で単年度黒字化への壮絶な実体験を「さらり」と「しなやか」な明るい口調でお話されました。

起業後は女性起業家にやさしくない社会を実感、創業時はオフィスを貸してもらえない、資本金を預ける銀行がない、などのハンディを乗り越え創業してから現在まで、働く女性にやさしい社会を作りたい!という信念で経営しておられます。

これから起業する人たちへのメッセージは

- 起業する前になぜ仕事をするのか?という使命感、大きな志の大切さをしっかりと持つ事
- 一人でできることはほんの少しだからパートナーは、尊敬できる人を選ぶこと



- 会社の理念は明確でわかりやすく、そうすれば共感や応援してくれる仲間たちが集まる社会が求めている事業は、きっと伸びる!常にお客様の声に、耳を傾けてスタッフ(社員・パート)がどうすれば働きやすくなるかを常に考え抜く。どれだけ大きな事業をするかより、どれだけ1件1件心をこめたかが大切とのことで、非常に具体的なお話でした。さらに、資本金にお子さんから貯金を出してもらったとのお話は胸に迫りました。それにしても上田社長の不屈の精神には素直に驚き、人間の大きさに圧倒されました。

次回は7月28日(土)午後1時から、阿倍野の大阪市立大学附属病院18階会議室で開催予定です。ゲストスピーカーは大阪商工会議所流通・サービス産業部長の中野亮一さん(法昭60)です。商工会議所から見た企業像等従来とは違った切り口のお話が楽しみです。

申し込みはalumni@ado.osaka-cu.ac.jpで受け付けております。

2017年度シスターフッドプログラム

とき : ①2017年12月2日(土) ②2017年12月16日(土)
③2018年1月13日(土)

ところ: 大阪市立大学梅田サテライト
(大阪駅前第2ビル6階)

大阪市立大学の女子学生(大学及び院生)を対象とした、2017年度のシスターフッドプログラムは12/2・12/16・1/13の3回開催され延べ16名の参加でした。

受講生からは、「大変役にたった」「私をみつめるテ





マだったので、自分を見つめ直すことができた」「今後も継続していただきたい」等の声がありました。

実施にあたっては、ゲストスピーカー①永田潤子様(大阪市立大学創造都市研究科教授)②戸田博子様(読売新聞大阪本社広報宣伝部長)③東條直美様(バンドー化学(株)総務部法務・広報・CSRグループ主任)の皆様方には大変お世話になりました。

2018年度は5月中旬の開催予定で学生の有志が企画立案する新しい試みです。

平成30年度医学部新入生入学祝賀会

4月5日(木)午後2時から医学部大講義室で行われ、入学手続き直後の新入生のほぼ全員とその父兄、それに教職員を含め総勢200数十名が参会しました。大畑健治医学部長挨拶、生野弘道医学部同窓会長祝辞、平田一人医学部附属病院長祝辞の後、主だった各科の教員とくに本校卒業者が登壇紹介され、次いで医学部6回生南野結衣さんの在校生歓迎の辞が、そして首藤太一教務委員長の激励の辞、おわりに板金広医学部同窓会副会長のガイダンスが、在学から卒業までを含めた同窓会活動の重要性を説きました。医師の(受精)卵たちは一同喜色満面和気あいあいのうち進行了しました。父兄は圧倒的に母親の晴

れ着姿が多く、ここ数年誠に華やかな雰囲気、式典の後医学部校舎中庭での小園遊会は、昨年は桜の花がまさに満開の真っ盛りだったのが、本年はかなり早く散り始めた直後でそれだけが残念でありました。茶話会が1階ホールで行われ、医学部OBたちも白衣姿でぼつぼつ参加して夕刻まで歓談が続きました。

本年度は合格者95名、内女子が12名で例年通り国公立中女子医学生が高率を維持し続けています。偏差値の公開はありませんがこれも年々上昇中で多くの国公立医学部のうちかなりの上位を占めるとのことです。



生野弘道 医学部同窓会長

女性部会(WPC)のご紹介

WPC

1999年男女共同参画基本法制定から19年が経ち、女性の社会進出を促す施策が次々と講じられている中で、「世界経済フォーラム」が毎年発表している男女格差の度合いを示す「ジェンダーギャップ指数」2017が、日本は0.657(格差なしの場合1)で114位と昨年よりその順位を下げ、その原因・対策等について各方面で活発に議論がされています。この指数は政治、経済、教育、健康の4分野で評価され、国会議員の女性比率(13.7%)、企業の管理職における女性比率(6.6%)、高等教育機関の長および教授における女性比率(15.4%)等の数字が低いことが要因となっています。すなわち、女性の社会進出は進んでいるものの、未だ輝ける立場での活躍が十分できていない事を示していると思われます。

このような状況に対して、女性部会(WPC: Women Promotion Center)は、大阪市立大学同窓会および大学のネットワークを構築し、大阪市立大学の卒業生・在校生が社会において活躍し、女性が輝いていける社会の実現を目指して、2015年に発足しました。

その主な活動内容は、以下の通りです。

- ① **女性卒業生のネットワーク作り**(WPCの趣旨に賛同する女性卒業生のネットワークを構築し、相互の情報提供、

交流を通じてライフステージに合った就労の場・生活の場での問題点や精神面での悩みの解決を促進)

- ② **在学生への情報提供**(就職情報、女性支援政策の把握、相談窓口、卒業生との交流など)
- ③ **在学生の大学生活、生活上の問題解決**(情報提供、相談など)
- ④ **女性のための女性の視点での環境整備**(学内の環境整備、美化など)

今まで、5回の交流会において、女性支援活動、弁護士、建築士、新聞記者、企業における女性支援等の場で活躍している方の話題提供と在校生等が抱えている課題についての話し合いを行ってきました。また、昨年荒川学長との座談会を行い、女性リーダーの育成についての意見交換や、現在の大学に対する提案を行い、女性教職員の支援策を実現していただきました。

今後、卒業して間もない方々や、大阪市立大学の女性教職員に参加していただき、それぞれが抱えておられる課題や解決策の輪を広げて行きたいと思っております。ご関心のある方は、是非ご連絡頂きますようお願い申し上げます。

世話人代表 北村 佐津木(理昭46年卒)

北河内支部(仮称)設立発起人会

と き :平成30年1月21日(日)

ところ:大阪市立大学理学部附属植物園

去る平成30年1月21日、大阪市立大学理学部附属植物園研究棟講義室にて、11名が参加して、発起人会が開催された。来賓挨拶で、児玉同窓会長より、支部は国内25支部から昨年は30支部に増え、北河内は31番目となる。卒業生は気軽に活動できるよう各支部とのつながりを強めてほしい旨の挨拶をいただいた。規約案では、各役員の選任にあたり、発起人の増員を図るか、現メンバーより選任するかの議論等、活発な意見交換となり、まずは北

河内支部(仮称)をスタートさせ徐々に拡大する方向で進めることで意見がまとまった。出席者は以下のとおり。

出席者(敬称略)

《来賓》

児玉隆夫 全学同窓会会長

森本 喬 有恒会副会長

宮川庄一 有恒会運営本部員

《会員》

東幸生、梶巻正男、工藤治夫、高原健、竹川正洋、飯野盛利、濱中嘉之、田中典子(植物園事務職員)

同窓会ニュース



明日を拓く、先進の電設資材



ニシムラ株式会社

本社 / 〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町 32
TEL : 075-681-2331 FAX : 075-671-1041
<http://www.nsmr.co.jp>

弁護士法人 なにわ共同法律事務所

弁護士 鬼 追 明 夫

(法・昭32年卒)

事務所 〒530-0047

大阪市北区西天満 2 丁目 3 番 15 号
千都ビル 2 階

TEL. 06-6363-2191 FAX.06-6363-1468

URL : <http://www.naniwakado.com>



unicharm

やさしさをつくる。やさしさでささえる。

自由に。快適に。
あなたらしい毎日を。

人々の「自分らしくあり続けたい」という気持ちに、ずっと寄り添い続けること。そして、健康寿命をさらに伸ばしていくこと。

世界中の誰もが、いつまでも自分らしく楽しみながら暮らせるように、私たちはこれからもあらゆる企業活動を通じて、ひとりひとりの毎日をサポートしていきます。

ユニ・チャーム株式会社

論壇・随想

五代友厚に寄せる想いと縁

満蘭 健士郎(商昭56卒・鹿児島支部)



今年は、明治維新150周年にあたります。

そして、この時に活躍した人物の一人が、大阪市立大学の基礎となった大阪商業講習所を開設した五代友厚で

あることは衆知のとおりであります。

私は、この五代友厚が薩摩藩英国留学生一行19名の一人として1865年に出航した鹿児島県いちき串木野市(旧串木野市)出身であります。英国から帰国後、近代日本の黎明期を駆け抜けて多くの功績を遺した人々の出発地。大学時代から、今、私が学んでいるこの大学は、私が生まれ育ち日々、眺めていた海から、大学の創始者が旅立ったところだと、わけもなく自慢に思っていました。

私は、卒業後、旧串木野市役所に奉職し、英国ロンドン大学へ1年間研修留学させてもらいました。

五代友厚などの薩摩藩留学生が学んだ同じ場所で、旧串木野市の将来のために勉強する目的でした。五代友厚に憧れていた私には、彼のおかげで行かせてもらえたと思っています。

旧串木野市の彼らの出航地である羽島には、彼らの偉業や当時の留学の様子を顕彰するため留学生の名簿の碑が有りますが、なんと、色形も殆ど同様の記念碑がロンドン大学の中庭にありここにも、縁があるなど感銘を受けました。



今、この記念碑は、羽島の「薩摩藩留学生記念館」の海端に立っています。

また、記念館に展示されているものは、当時を偲ぶ史



料、例えば、当時は鎖国時代であったので、表向きは東シナ海に浮かぶ甌島やその他の島の状況視察との名目で、その薩摩藩からの辞令もあります。カリフォルニア葡萄王となった長沢鼎直筆の日記、留学生が着ていた袴なども展示されています。

因みに、薩摩藩がこの留学生派遣に要した金額は、現在の貨幣価値では70億円ともいわれており、薩摩藩が、いかに欧州列強に学ぶことの重要さ、日本の将来を託す人材育成事業に熱心であったかが知らされます。わずか19名の派遣事業に70億円、単純に1人当たり約3.7億円を投資したことは、現代の日本であっても驚くべきことであります。

そして、この英国留学の中には、後に次のように要職を歴任した者も含まれていたのです。薩摩藩の小さな漁村から船出した13歳から31歳の彼らの中からかくも多くの人材が輩出されたことは驚愕に値することです。

- ・町田久成・・・帝国博物館初代館長
- ・森有礼・・・文部大臣・東京商業講習所設立
(現在の一橋大学)
- ・鮫島尚信・・・同時にイギリス・フランス・プロシア大使
- ・松村淳蔵・・・海軍兵学校長
- ・寺島宗則・・・外務卿・文部卿・元老院議長
- ・吉田清成・・・米国特命全権公使(条約改正)
- ・中村博愛・・・オランダ・デンマーク弁理公使
- ・村橋久成・・・サッポロビール創設
- ・長沢鼎・・・カリフォルニアの葡萄王(ワイン)
- ・畠山義成・・・東京開成学校(東京大学の前身)初代校長
東京書籍館館長(国会図書館の前身)兼
博物館館長

そして、この留学生を率いた五代友厚もまた、若い時か

ら、死ぬまで忙しく動き回っていたようです。

五代に関する書籍を読む中で、彼の才能は、特に経済活動において幅広く発揮されたことを歴史が証明していると記述されており、そのいくつかを紹介すると、薩摩藩士で20代前半には、長崎で複数回にわたりイギリス船を購入、富国の為には世界に通用する人材育成のための薩摩藩士英国留学を藩主に上申し、自らも渡英して、造船技術や武器、紡績機械の買付けを行いました。

また、帰国後、長崎の小菅修船場(世界遺産)を作り、大阪では、大阪株式取引所設立、大阪商法会議所を設立し初代会頭に就任しました。

そのほか、大阪製銅会社、神戸栈橋会社、阪堺鉄道会社も設立しました。

このように、五代友厚にスポットライトが当てられだす少し前、私たちの同窓会鹿児島県支部も4年前に結成されました。まだ弱小支部ではありますが、総会後の交流会では、五代友厚についての話が盛り上がります。また、これまで、いちき串木野市にある薩摩藩留学生記念館を皆で見学したり、鹿児島市内にある五代友厚のお墓に同窓会本部の役員を案内したり、総会に歴史研究者をお招きして五代友厚に関するお話を聞いたりしてきました。そして、この秋には、大阪市内、あの明治維新の舞台となった「花外楼」で鹿児島県支部総会を行うことに決定しており、大いに楽しみにしているところです。

近代日本をつくった功労者、大阪経済復興の立役者五代友厚は、我が市大創設者であることをこれからも、私は自分なりに自慢にしていきたいと思っています。

最後に蛇足ながら、我等が母校、大阪市立大学には、私の実兄夫婦とも、そして私の愚息も在籍、卒業させていただきました。還暦を迎えて振り返る時、私にとって、人生のそこかしこに、五代友厚と大阪市立大学の縁があったものだ感慨深いものがあります。

ミュオグラフィとアート

中島裕司(法昭55卒)



一昨年から取り組んでいるミュオグラフィに関して、私が制作した作品を紹介しながらどういうものであり、いかに大切な科学であり、アートであることを述べたいと思う。

ミュオンは、宇宙に存在する素粒子の一つである。その素粒子は千万年もかけて地球に到着し、その存在時間は100万分の2何秒という特性がある。儚すぎる存在である。このことだけどロマンの話である。しかもミュオンは火山やピラミッド等巨大物体をも透過する大きな力を

持っている。今、現在どこにでも存在して、私たちの体をも透過している。

エックス線が一番なじみ深いし、知らない人はいないだろう。透過力があり、人体を透視できる。医学にとっては必要不可欠である。

医療関係だけでなく、最近は文化財などの透視にも使われている。

一方、ニュートリノは地球の内部までをも通過できる力を持つ素粒子であり、ミュオンはエックス線とニュートリノの中間程度の透過力を持っていると考えてもいいように思う。

ミュオグラフィの測定装置は大阪市立科学館に湯川秀樹やカミオカンデなどノーベル賞のコーナーに常設展示されている。

文系で画家である私にとっては、大まかなところまでしかわからないが。

どちらにせよ、こういう話はロマンであり非常に感動する。

科学とアートは全く正反対のような位置づけであるように思われていたものが、ともにロマンの世界にあり、『そうぞう』という言葉をもいつも僕は話しているが、ともに『そうぞう』の世界である。想像(imagination)から創造(creation)である。



何もない事象や心の内部を創造して、科学もアートも科学データや機器、そして作品を創造する。

一般人には理解できないし興味も持てない科学のデータ等、をアートの力で一般大衆にも興味を持ってもらうことで知れ渡ることが今後必要であるように思う。興味を持てば、人間は理解しようとする。

地震大国・火山大国の日本にとって、また原発の内部を非破壊検査で透視できるミュオグラフィは必要不可欠なものになるであろう。

私は、ミュオンのイメージをもとに作品を制作中である。

最初は絵画だけであったが、徐々に立体や音楽等総合芸術に高めていき、世界的な規模に発展していき、ミュオグラフィが定着すれば、一つの使命を終えたことになる。

教育現場から見た大学論

景山滋夫(文昭62卒)



高校の教育現場から見た大学論について、受験生や保護者、教育現場から見てわかりやすい4つの視点から論じてみたいと思います。

その際、目安をわかりやすくするために、同じ大阪府内の総合大学で国立大学の代表として大阪大学と「関関同立」の一角を占める私立大学の関西大学と比較すると興味深いかもしれません。

まず第1の視点として大阪府立大学と合併した場合には、結果として規模で神戸大学を抜き、文系では法学部、経済学部、商学部、総合科学部、文学部と揃い、理系では医学部、工学部、生活科学部、農学部と揃うことになります。特に文系では、近年、京都大学や早稲田大学の例でもわかるように受験生に人気が高い、文理融合型の総合科学部が新たに加わり、更に受験生に根強い人気のある大阪府立大学の伝統ある獣医学科を含んだ農学部が加わるにより、国内や海外の中で存在感のある総合大学になりうると考えます。

こうなれば国立の大阪大学や京都大学、東京の総合大学とも十分に対抗できる、まさに“副首都”大阪の機能に相応しい公立大学として、首都大学東京になぞらえば、“副首都大学大阪”とも言えるような、発展の姿が描けると思います。

第2の視点として大阪商科大学の創設者関一の「国立大学のコピーであってはならない」という市大生にとっては有名な言葉がありますが、大阪市立大学は、市民の大学、800万都市に立地するところから、「人権の尊重」を校風の中心に据えてきたところがあります。公害問題や人権問題を学問の中で取り組んできた校風があります。早稲田大学の「東西文化の融合」や慶応大学の「独立自尊」のような普遍的な価値を持っているので、これからも大切に伝えていきたい理念や精神があることです。

第3の視点として、大学祭以外に全学的な市民参加型の行事があることです。例えば阪大は旧七帝大戦、早稲田大学と慶應義塾大学には大学野球の早慶戦があり、関西大学には関西学院大学との関関戦がありますが、市大の場合、5月に市民も参加できるボート祭があり、「水都」大阪に相応しいイベントとして大切に伝えていきたいものがあります。

第4の視点としては、大阪市立大学は、旧制大学由来の大学のシンボルになる建物があることが挙げられます。全国的には、東京大学の安田講堂や京都大学の時計台本

部、慶應義塾大学の赤煉瓦の旧 論壇・随想

図書館や早稲田大学の大隈講堂

などは有名ですが、市大にも戦前の阪神モダニズム建築を代表する1号館があります。

以上、第1に大学の規模、第2に市民精神の涵養、第3にボート祭、第4にシンボルになる1号館本部といった物心両面から論壇としてまとめてみました。4つの視点から考えても卒業生として、これからのお阪市立大学の発展と内容の充実が楽しみです。

学術論文掲載までの険しい道のり

保科あずさ(医平19卒)

専門誌に論文を投稿する。私も京都大学iPS細胞研究所の大学院生として、ついにこの論文投稿を行う段階まで来た。私が在籍する京都大学医学部では英文誌に論文が掲載されないと学位審査が受けられないため、専門誌への論文投稿はどうしても通らなければならない道である。だがこの道がどうにもこうにも険しい。



まず、論文にまとめられるだけのデータをそろえる必要がある。これだけにすでに4年を費やしている。そこから英文で自分の実験データについて論じるという作業が待っている。しかし、論文を書く前にする大事なことがある。それはどこに投稿するかを決めること。メジャーなものでは三大誌といわれるNature, Science, Cell (山中先生のiPSの論文はCell に載った)、その下にNature Medicineなどの姉妹誌といわれる系列誌があり、最近はネット上でのみ発表される科学誌も多い。とりあえず、自分の論文のテーマやデータを見てどのくらいのレベルの雑誌へ応募するのが妥当かだいたい目星をつけたら、次にその雑誌の投稿規定を調べる。これは文字制限とかフォントの大きさとか、図表のつけ方などを事細かに指示しており、雑誌ごとにちょっとずつ違う。これを読むのに半日はかかるくらいの量である(もちろん英語)。

そしてついに本文をまとめ始めるのだが、思えば高校3年生の時の英作文力が自分の人生の中でのピークで、それ以降、英語で文章を書く機会などなかったものだから、まず単数形と複数形、過去形と過去完了形からおぼつかない。過去の類似文献や参考文献から文章を引っ張ってくる。ただ最近は大学のレポートでもコピー認識ソフトが使われているように、科学論文でも過去の文献と一致する箇所が多すぎるとそれだけで不受理(reject)とされるようだ。といっても上司のチェックやネイティブチェックを受けるうちに初めの文章からどんどん変わっていくので、完全に一致する可能性はあまり高くない。それでも、実験方法を述べる箇所などは研究室内でほとんど条件は同じであり、同じ研究室の他の研究者の論文と内容を変えようがない。主語を変えたり動詞を変えたり、四苦八苦しながらなんとか文章を紡ぎだす。

論文の体裁が整ったら、ネイティブチェックに出して校正してもらう。これは外注することがほとんどで、一単語いくらの世界。それが終われば、投稿。最近の論文投稿はほとんどネット上で受け付けている。共著者に本文を送って最終確認を得るなどここでも色々な手続きが待っているため、投稿するだけで半日から数日を要する。

投稿された論文はEditorとよばれる編集者のチェック

が入ったのち、Reviewerと呼ばれ **論壇・随想**

る査読者(多くはその分野の科学

者2~3人)に回される。Reviewerは論文の妥当性や齟齬がないかなどをチェックし、まずその雑誌に載せるにふさわしいかどうか判断する。ここでふさわしくないと判断されればRejectとなる。もし載せてもよさそうな場合、大概そこで追加実験を命じられる。Revise実験と呼ばれるそれに1か月から数か月かけ、それがReviewerに認められれば晴れてAcceptとなるが、運が悪ければ採択されないこともありうる。

Acceptとなってもそれで終わりではない、掲載料を支払わなくてはならない。雑誌によっても違うが、論文を載せてもらうのに10~50万ほどかかる。普通の雑誌ならお金をもらって記事を書くのに、学術誌はなぜ寄稿者からお金を取るのか、考えてみれば不思議である。論文掲載がその研究者のキャリアになるのだから仕方がないのか、その足元をみられているようで腑に落ちない。この出版不況の中にあって科学誌の数がどんどん増えているのはこういうメカニズムによるものかと思ったりもする。とにかくAcceptは研究室にとっても最も明るいニュースの一つであり、著者は研究室のみんなから祝福を受け、雰囲気明るくなるのは確かだ。私も早く祝福されたい。



支部だより



宝塚支部総会

とき : 平成29年12月2日(土)

ところ: 宝塚温泉 ホテル若水

武庫川の清流を望むホテル若水で今年も宝塚支部の例会を開催した。まず来賓の池上副学長から挨拶をいただいた。副学長は市大生の質の高さ、荒川学長の目指すところ、平成34年に府大との統合、男女共同参画の推進などを話された。ついで児玉会長は全学同窓会のさらなる充実化を進めると述べた。牧野副会長はより同窓会を充実化するため地域と学部と世代間の広がりを図りたい。岩川サポーター交流室長からは当宝塚支部会員の井上さん(工昭28卒)から高額の奨学資金の寄付をいただいたと報告があった。

ついで懇談会に入った。毎年皆勤出席の女性会員の藤原さん(生昭44卒)に乾杯の音頭をお願いしたあと大阪市大交響楽団の現役お二人にクラシック音楽の演奏を披露していただいた。当支部で初の試みであったが若人による演奏は懇談会を大いに盛り上げた。そのあと新会員の井上さん(家昭38卒)、神門さん(工昭45卒)と上道さん(工昭46卒)からの自己紹介があり、続いて建部さん(経昭28卒)から高齢のうえに大病を乗り越えて世界各地を旅行していて未踏の国がごく僅かになったという驚くべき話が披露された。最後玉置さん(商昭39卒)に桜花爛漫のプロローグでリードしていただき全員斉唱で中締めとした。

(原木)



大阪南支部 臨時総会

とき : 平成30年2月3日(土)

ところ: 総会/高原記念館

懇親会/野のはなハウス

約40年以上の歴史がある大阪市立大学有恒会大阪南支部を全学ベースでさらに拡大・充実するために、市大のお膝下である大阪市全域およびその周辺地域に在住または勤務される大阪市立大学の幅広い年齢層の卒業生が、「クラブ・ゼミナール等の大学時代の話」「異業種交流」「職域の拡大」「趣味のこと」等、その時折の話題を通じて交流を図り、相互の親交を深めることができるよう改編のうえ、新体制で「大阪市立大学(全学)同窓会 大阪南支部」として、臨時総会を開催した。

荒川哲男学長、児玉隆夫同窓会長をはじめ、同窓会副会長の皆様を含め、約50名がご出席頂いた。今後、さらに女性会員、若い年代の卒業生も多く入会して頂けるような「大阪南支部」にして行きたい。

第二部の懇親会では、藤森 貢さん(医昭30卒)の「乾杯のご発声」でスタートし、なごやかな雰囲気のもと、逍遙歌「桜花爛漫」～プロローグは、馬術部監督の北 博幸さん(商昭52卒)のリードで大合唱。閉宴のご挨拶は、牧野忠廣有恒会副会長にお願いした。皆さん全員に、お土産として「荒川学長のビーフシチュー」をお持ち帰り頂き、大好評であった。

(幹事:大西)



京滋支部12月例会

とき : 平成29年12月22日(金)

ところ: 京懐石 花伝(京都市中京区)

平成29年京滋支部行事の締めくくりとなる12月例会が、今年も京都の真ん中といわれる六角堂近くの京懐石料理花伝で開催されました。

会員の皆さんが、1年のいろいろな出来事を振り返りながら近況を報告し合い、今年も無事に過ごせてよかったとお互いの幸せを喜びあう「ほっこり」とした気分を味わえる例会です。

年末の多忙な時期の開催となることから、現役世代なども参加しやすいように、18時開会ではありますが19時

からの参加も呼びかけるなどして、少しでも多くの会員に参加いただけるように工夫しており、今回も2名の方に初めて参加いただきました。

お座敷の見事な京懐石料理を前に、塚本喜左衛門京滋支部長のご挨拶で開会し、初参加やお久しぶり参加の会員さんのご挨拶や4月のバスツアーの案内などが行われ、美味しい料理と尽きない話題にお酒もぐっと進み、あっという間に二時間半が過ぎました。

最後は、全員が肩を組んで逍遙歌を歌い、石井欽三先輩(高昭26卒)にリードいただきエールを交換し、来年の再会を期してお開きとなりました。(中西和彦)

徳島支部総会

とき : 平成29年12月26日(火)

ところ : 三楽(徳島市内)

平成29年12月26日恒例の徳島有恒会の総会を開催いたしました。今年は全学同窓会会長 児玉隆夫様、有恒会副会長 牧野忠廣様、有恒会事務局長 上村修三様にご参加いただいたほか、大学より法人運営本部大学サポーター交流室長 岩川和朗様にもお越しいただきました。年末ご多忙のところ、まことにありがとうございました。

総会は当徳島有恒会の大会長のあいさつで始まり、来賓の皆様より市大や同窓会の近況や課題についてお

話いただきました。懇親会では、市大のシンボルであったヤシの木が寿命のため伐採されたとお聞きしました。私事ですが、市大受験の前日に士気高揚のため杉本キャンパスを訪れ、その時に見た立ち並ぶヤシの木と1号館の光景は今でも印象に残っています。

また、同窓会運営に関しては、他の支部においても若い世代の参加が少ないとのことでしたが、今回の総会では久しぶりに平成28年卒1名、平成29年卒2名の計3名の若手初参加者(内2名女性)を迎えました。改めて若い世代の参加が会に活力を与えると感じています。これからも会員が積極的に参加する魅力ある会にしていきたいと考えていますので、引き続きご指導、ご助力をお願い申し上げます。

(沢田久志)



〈国内・海外の同窓会支部マップ〉

近時、地方の支部は名称を「大阪市立大学同窓会」に変更しつつあります。(国内30支部・海外10支部を数え) 昨年は国内支部として、静岡支部、南大阪支部及び宮崎支部がスタートし、現在さらに数か所の国内支部が設立準備中です。

大阪市立大学同窓会・有恒会 支部連絡先一覧（国内、海外）

国内・支部名	支部長・会長 幹事代表、事務局等	学部卒年	メールアドレス
北海道支部	支部長 石黒 直文 矢橋 潤一郎	経昭29 経平6	k-info@kaitaku.gr.jp j.yabashi@hokkai-jp.com
東北支部	支部長 石橋 信勝 早川 公康	法昭44 生院平10	nt.bashi@nifty.com km-hayakawa@sendai-u.ac.jp
東京有恒会	支部長 深尾 愛二郎	経昭44	aijiro.fukao@socio-consultants.com
静岡支部	支部長 山本 義彦 久住 治彦	経博昭48 商昭44	yamamoto-y@hotmail.co.jp KZM1945@yahoo.co.jp
北陸支部	支部長 誉田 豊 堀江 寿郎	商昭44 商昭52	yu-konda.itc@nifty.com horys@smile.ocn.ne.jp
愛知支部	支部長 滋野 公彦 奥田 篤志	経昭59 経平1	k-shigeno@admatechs.co.jp atsushi-okuda@kajima.com
三重支部	支部長 岡本 直之 北村 純一	商昭45 経昭46	okamoto.naoyuki@sanco.co.jp ripple@k7.dion.ne.jp
有恒会 京滋支部	支部長 塚本喜左衛門 藤野 正純	経昭46 商昭51	kizaemon@tsukaki.com fujino@mbox.kyoto-inet.or.jp
有恒会 大阪北支部	支部長 小林 俊介 甘田 外成	法昭44 経昭40	Koba@amigo.zaq.jp sotonarikanda@m8.gyao.ne.jp
大阪南支部	支部長 金村 福寿 崎山 光友	商昭56 商昭50	kanemura@fukujyu.jp m.sakiyama1161@gmail.com
北摂支部	会 長 鶴原 常雄 多田 省吾	医昭35 法昭45	tsuneo7620794@cap.ocn.ne.jp coin-sougou_kaikei@xvb.biglobe.ne.jp
南大阪支部	支部長 頓花 修二 古下 政義	商昭54 法平成3	tomihana@minatoseiki.co.jp ksm@city.sakai.lg.jp
神戸支部	支部長 松坂 隆廣 藤本 達也	商昭49 経昭61	t.matsusaka@bando.co.jp ocukobe2017@gmail.com
宝塚支部	支部長 原木 文吉	商昭43	bmast@jttk.zaq.ne.jp
姫路しらさぎ支部	支部長 松浦 康裕 吉備 文昭	経昭50 商昭51	matsuura1@mug.biglobe.ne.jp makibi@kuh.biglobe.ne.jp
奈良支部	支部長 高橋 敏朗 一柳 茂	営修昭43 商昭49	ichiryu633@rainbow.plala.or.jp
有恒会 和歌山支部	支部長 小佐田 昌計 谷村 守彦	法昭43 法昭55	tanimura_m0001@pref.wakayama.lg.jp onoken55@gmail.com
有恒会 岡山支部	支部長 小野 健太郎	商平5	o.inoue@viola.ocn.ne.jp
有恒会 広島支部	支部長 井上 道 河合 直人	法平3 法平11	kawai@hiroso.jp
有恒会 福山支部	支部長 塚本 義政 塚本 光人	法昭53 法昭51	tsuka0418@ec2.technowave.ne.jp
山口支部	支部長 村田 信宏 吉田 慈孝	経昭56 理修平11	nobum2014@outlook.jp 31344u@ube-ind.co.jp
山陰支部	支部長 西田 良平	理昭41	roy_nishida_5257@yahoo.co.jp
香川支部	支部長 八代 田次郎	経昭37	jiro.yashiroda@gmail.com
徳島有恒会	支部長 大平 恒己 沢田 久志	経昭41 商平6	taishi@ec3.technowave.ne.jp ok.hisashi_123@docomo.ne.jp
愛媛支部	支部長 曲田 清維 浮田 泰昌	生院昭52 経昭54	magata.kiyotada@sky.plala.or.jp ukitakaikei@dream.com
福岡支部	支部長 藤本美佐子 棟居 秀信	生昭47 商昭52	fnaw1@soleil.ocn.ne.jp h-munesue@grace.ocn.ne.jp
鹿児島支部	会 長 支部長 平田 宗興 中村 俊久	医昭46 商昭47	okihirata@gmail.com ntoshisakurajima01@ae.auone-net.jp
大分支部	支部長 日名子晃三郎 中野 洋介	経昭38 商平4	yono606@yahoo.co.jp
宮崎支部	支部長 橋口 律男 児玉 憲生	法昭49 商昭52	hasiguti@d6.dion.ne.jp
沖縄支部	支部長 天願 勇 目加田 博史	医昭47 商昭53	dr.isamu@tougou.jp mec@mekata.co.jp

海外・支部名	代表者	卒部卒年	メールアドレス	海外・支部名	代表者	卒部卒年	メールアドレス
上海支部(上海友好会)	吉田 耕平	商昭63	yoshida-kouhei@hanwa.co.jp	シンガポール	森田 宏	商昭45	sky21sin@singnet.com.sg
台湾支部	中野 元紀	商平10	nakanotw@icloud.com	ニューヨーク支部	松井みさき	経平7	misaki.matsui.ny@gmail.com
香港	朴 貞子	経博平18	Jaslyn.piao@gmail.com	シドニー支部	祝部 丈夫	商昭39	jyhoori@iprimus.com.au
バンコク支部	田宮久弥雄	経平13	tamiya.kumio@jp.panasonic.com	ホーチミン支部	猪谷 太栄	法平11	inotani@vitjp.com
インドネシア支部	木下 純一	法平8	junichi.kinoshita@perdania.co.jp	クアラルンプル	上野 展弘	工平15	ueno@nagase.com.my

会員のひろば



クラブOB会

関東己求会の集い

とき：平成29年11月18日(土)

ところ：東京駅地下「日本海庄や」

関東己求会とは、弓道部OB会(己求会)の関東版です。弓道部再建発足(昭30年)当時の仲間で首都圏在住の者が、時々集まって飲んでいます。

酒を飲みながら、少々のためになることと、沢山のアホなことをしゃべり合っていますが、平均年齢80歳を超え、酒量は低下の一方です。それに比例してアホなことの割合が少なくなり、ためになることが増えましたが、ナニ病気の体験談が増えただけです。

これは本当にためになる話の一つ。老人は車運転を控えるのが良いか？

メンバーの一人が認知機能検査を受けた時の自動車教習所担当官の話。「老人になったからといって運転回数を減らすよりも、毎日少しずつでも運転しなさい。それが認知機能を維持する最良の方策です」と。これはなかなか良い話ですね。前向きです。

もう一つ。写真に見る通り、全員あたまの髪の本数が減り、色が白一色です。ところで、テレビでは育毛効果を喧伝するコマーシャルがしきりだけど、騙されてはいけない。テレビで言うほど効果があるなら、今頃あたまが薄い人はいない筈。効果がないから喧伝しきりなんだと。これはためになるアホな話。

もう一つ。昭和31年に東京都国立市(くにたちし)の一橋大学で戦後初めて弓道の三商大戦が行われました(当



時神戸大は弓道部がなく、二校による対抗戦)。選手八人の中の四人が写真の中にいます。筆者が最近、国立市を訪れる機会があったので、一橋大弓道場(当時のままでした)に立寄った話をしました。懐かしさは一入でした。

とまあ変哲のない話ばかりですが、話題の一部をちょっと列記しました。ところでこの写真、ビール瓶も徳利も写っていませんね。追加注文もせずに……。

集いは来年にまた。

高橋 宏(経昭34卒)

漕艇部 紅槳会(OBOG会)東京支部 平成30年 新年会

とき：平成30年1月21日(日)

ところ：霞が関ビル 東海大学校友会館

漕艇部のOBOG東京在住者親睦会、紅槳会東京支部の恒例の新年会を昨年と同じ、虎の門、霞が関ビル35階、東海大学校友会館で開催しました。

大阪より、昭43富樫会長、昭49中江幹事長、またこの日に合わせ関東在住の先輩周りをした主務の八瀬君とマネージャーの松山君(3回生)／浅原君(2回生)を招待して総勢38名の参加を得て行われました。



会長、東京支部代表昭37山田さんの挨拶と幹事長の活動報告、主務から漕艇部の現状と今年の目標の報告があり、昭47西谷さんの乾杯で始まりました。

会場では、特別に設置したスクリーンから昨年度の試合が写され、市大カラーのオールの力漕する姿を見ながらの会でもありました。

今年は、平成卒の参加が初めて14名の二桁になり、初参加も最多の10名となる盛況でした。

最後に昭61奥田さんリードによるプロローグの逍遥歌と部歌を熱唱、平6猪頭さんの中締め、最後に高校時代応援団で鍛えた美声／蛮声による昭60佐野さんの一本締めで閉会となりました。

来年も2019年1月20(日)当館で開催することを約して終了しました。

巽 良二(商昭45卒)

平成30年度 陸上部OB会(陸友会)を開催

とき : 平成30年4月1日(日)

ところ: 大阪新阪急ホテル2階

恒例の陸友会総会が、4月1日に開催されました。今年は会場が大阪新阪急ホテルに移り、関東や四国など遠方からの参加もあって賑やかでした。総会では、昨年度の活動・会計報告、今年度の予算、活動計画が説明され、各議案が原案どおり承認されました。

陸上部が大阪高商時代の1920年に創設され、まもなく100周年を迎えます。陸友会では記念誌作成プロジェクトを立ち上げ、おおまかな編成方針案をまとめたところですが、相応の支出を要しますので、寄付や資料提供・寄稿をお願いする旨、総会場で改めて説明されました。

総会終了後、場所を移し、現役の陸上部員(幹部の3回生)を交えて懇親会が開始です。



亀井会長の開宴挨拶、鶴谷相談役の音頭による乾杯の後、OBと現役部員の和やかな懇談となりました。遠来会員をはじめとする近況報告、矢守主将ほか現役部員の力強い決意表明も。そして最後は、出席者全員が輪になり逍遙歌を高らかに歌いました。

今年度は、5月中旬の関西インカレ(西京極)や、7月21日(土)の旧三商大戦(服部緑地)などが催されます。応援のほどお願いします。 二宮 一(法平元卒)

同期会

法学部昭和45年卒業者 同窓会食卓会

とき : 平成30年2月24日(土)

ところ: 帝国ホテル大阪「レセゾン」

昭和41年4月に法学部へ入学した者に対し水口さんが同窓会を呼び掛け、会場設定等もしていただき26名が参集した。前回開催から約6年ぶり、同ホテル23階のレストランの非常に豪華な部屋で

フランス料理を食する機会を得た。眼下には市大ポータ祭が催された大川が見え、学生時代が思い出された。開

会に当たり、水口さんの挨拶で『同窓生の参加人数が少なく、意義がなくなりつつあります。最後の同窓会になるかもしれません』等の話があった。続いて樋上から市大と府大の統合問題の経過説明と大阪市会で「一法人二大学案」が承認され、新大学への道筋ができたことの説明がなされた。



その後、仲内さんの乾杯の発声があり、七つのテーブル席でそれぞれ会食・懇談に移った。教養課程時代では語学を受講する時、A B C クラスに分かれ、各クラスではみんな名前と顔を覚えていたものである。また、他の講義でも顔を合わせる機会が多かったが、3回生から専門課程に入ってからゼミやクラブ活動などが中心になり、しかも市大紛争の発生後、大学が封鎖され次第にキャンパスではみんなとは顔を合わせる事がなくなっていた。したがって、同窓生の中には約50年振りに再会したもの、お互いに姿かたちが変わり胸に貼ったネームシールを見ても記憶を呼び起こせない光景があちこちで見受けられた。出席者は限られた時間内にできるだけ多くの人と旧交を温めようとテーブルを移動して会話を交わし、それぞれ和やかな雰囲気が随所で醸し出された。5人の女子学生の内の1人、田中(旧姓岡田)さんも出席し潤いのある食事会となった。宴もたけなわの頃、皆様のご健勝を祈り、伊世さんからの手締めによりお開きとなった。話し足りない一部の者は大阪駅付近の喫茶店等で別れを惜しみ会話を楽しんだ。 樋上晴雄(法昭45卒)

市大第一期生(関東)

第43回関東地区28会を今年(平成17年)も若人の街、原宿の「南国酒家」で催した。

今回は昭和5年生れを標準に数え年で米寿とあって人一倍同窓会への思い入れの強いユニチャームの高原慶一郎君が病軀を押し娘さんの付添いで車椅子で参加された。

そして現在も現役社長として車えび養殖日本一の松本昌美君が遠路九州から空路上京参加。

更には大阪地区28回で幹事長を務める建部好治君も久し振りに参加された。

参加者総勢15名の賑やかな同期会となった。

冒頭、奥村幹事長より「例年、黙祷から始まるこの会が今年はその必要がなく全員元気でられる旨を述べられ嬉しい限りである。」と。

続いて43回を数えたこの会も米寿を節としてそろそろ終りとするか否かについて今日は是非、意見を聞かせて欲しいと提案された。



その時大阪代表で出席の建部君が立ち上り「参考迄に大阪では来年の満年齢88才の米寿の祝を兼ねて1人でも多く集って終りにしようと既に日時・場所も決めておる、については東京からも是非参加して欲しいと。」

この提案を聞いて期せずしてそれは名案だ、東京もそうしようと異口同音の発言があり、この件は案ずるより産むが易しと相成った。

更に奥村幹事長よりこの際、新しい幹事にお任せしたいと述べられ前田達男(経)多屋修一(商)の両君に幹事役を要請され、これに対し両君も会の為なら引き受けられ全員拍手でお願いする事となった。

かくて恒例の各自のスピーチとなったが例によって体験談や健康問題等、若々しい声での発言が相次いだ。

長野秀保君は旧制天王寺中学時代、机を並べていた(故)開高建君について「彼は家庭の事情で授業を欠席することがあったが、そしてその都度彼にノートを貸したが、その彼が試験の答案は常に「優」であった。」と述べられ、中学時代から優れていたことが述べられた。

かくて盛り上った会も予定時間をオーバーしたところで恒例の山口延泰君のプロローグ朗読の後、全員で逍遙歌桜花爛漫を合唱し揃って写真撮影後、来年の元気で再会を約し散会。

真鍋久勝(経昭28卒)

第19回経32会 (昭和32年経済学部卒同期会)

とき：平成29年10月12日(木)

ところ：長浜ロイヤルホテル

毎年続けてきた第19回の「経32会」は、当初「大阪市周

辺で開催を」と考えたが、関西における外国人観光客の激増で宿泊施設の確保が難しく、第7回・第17回に引続き東京からの交通の便も良くゴルフ場も近くにある湖北の景勝地長浜で開催することになった。

同期生全員傘寿も過ぎ、年々高齢化が進み薬や病院のお世話になる体調不良の方が続出し、最終的にはそこそこ健康な参加者10名と前年同数となり、関東から4名、関西から日帰り1名を含む6名の参加となった。

今回も受付開始16時を予定していたところ、早々に全員が集まり各自部屋に入ってくつろぎ、17時にはホテルの写真室で恒例の記念撮影を行った。



一たん解散し、大浴場で心身の疲れをいやし18時には皆、宴会場に集合した。

冒頭でこの一年の間に幽明境を異にした友人たちに心をこめて黙祷を捧げ、今回卒業以来初めて参加された田宮兄に乾盃のご発声をお願いし、和気あいあいの中に賑やかな宴が始まった。

世話人が進行役をつとめ、まず初参加者からスピーチの口火を切って頂き、順次各人が健康状態や近況について語り、談論風発時のたつのを忘れて大いに盛り上がり楽しい一時を満喫した。

全員のスピーチが一巡するまで2時間余を要し、予定時間をかなり超過したところで翌朝早起きするゴルフ組に配慮し、尽きぬ話題を打ち切ることとした。来年節目となる第20回の「経32会」でも、一人でも欠けることのない再会を誓い合って散会した。

今川 明(経昭32卒)

ゼミOB会

第12回再開東京生川会実施報告

とき：平成30年2月21日(水)

ところ：日立目白クラブ

商学部生川ゼミの東京地区OB会(東京生川会)は平成5年を最後に中断、平成17年に再開して以来12回目を迎えた。約100名に案内し、回答が50～60名、参加者が約20名といった状況です。昭和40年代卒業者は生川ゼ

ミ、商学部などの同期会(横糸)が熱心で開催されており、縦糸の活動としての本会への参加が少ないのはやむを得ないと感じています。

前回欠席された服部さんと坂根さんが元気に参加され、久しぶりの参加者(野木さん、大家さん、青木さん、松本さん、森脇さん)が5人もおられ、常連の方々と懐かしい会話が交わされた。

第8回より連続して講義して頂いている池田孝夫さん(昭46卒)より「最近の経済・金融・為替情勢について(天下大乱の予兆か バブル鳴動 市場の不協和音 戾わらうか?)」のテーマで約1時間プレゼンして頂いた。



池田さんの講義の後、坂根さんの挨拶、服部さんの乾杯のご発声と続き、歓談に入った。年次の近い人が集まって旧交を温めるとともに、久しぶりに参加の人との話は大いに弾んだ。久しぶりに参加の方々を中心とした挨拶では、ご無沙汰の理由と近況を報告。経験した病気や趣味(酒を含む)・運動の話とともに、「今後はできるだけ参加したい」と抱負を語った。今年も神戸から参加の窪田さんから、一昨年8月に復活した関西生川会の第2回目開催の報告があった。今後も窪田—佐藤(昭45卒)—山岡(昭55卒)のラインで結束して、継続開催すると決意表明された。

開催時期を変更してはという意見が会員からあったが、参加者の大半から現在の「2月の第3水曜日」でよいとの意見があり現行通り実施することにした。

最後に、逍遙歌「桜花爛漫」に入り、今回も坂根さんのプロローグにより全員で歌った。記念撮影の後、次回での再会を祈念して散会した。次回は平成31年2月20日(水)の予定。案内の届いていない方は楠本安男まで。

(ica20413@nifty.com)

楠本(商昭46卒)

太田ゼミ同窓会

商学部の太田ゼミ(経営情報、オペレーションズマネジメント)の同窓会を11月4日(土)大学祭の中日に行いました。

■杉本キャンパス内でのパネルディスカッション

場所:学術情報センター1階文化交流室

テーマ:「この時代を、市大生としてどう生きるか」

杉本キャンパスで開催された在校生企画のパネルディスカッションでは、第一期生から昨年卒業した人の中から、籠瀬君(富士通)、日昔さん(三菱東京UFJ信託)、神宮司君(サントリー)、久保君(アマゾン・コムジャパン)、梅木さん(JACCS)、山下君(ダイセル)にパネラーとなってもらい、在校生の井上君(現トヨタ自動車)が司会を行いました。卒業生の現在の仕事状況、仕事との向き合い方、困難の乗り越え方、出産時の対応などなど、在校生、卒業生ともに、今後の活動の大きな示唆を得ることができた内容となりました。

■梅田での同窓懇親会

場所:ハートンホテル北梅田 宴会場

夕方からは、会場を北梅田のハートンホテルに移し、卒業生・在校生を含めて72名が出席してくれる大変、大規模な同窓とすることができました。写真は最後で皆で撮影したのですが、皆の笑顔がもの凄くて圧倒されてしまいます。この笑顔も、卒業生全員の力だと思います。その力を、パブリックでも、プライベートでも、発揮してこれから益々充実した日々を過ごしていくことを全員で約束し、そして次回を楽しみに散会をしました。懇親会の最後の方は、あいかわらずの「ゆるさ」満開の雰囲気になってしまい、私も笑い泣きというか、うれし泣きというか、思わず涙が出てしまいました。

太田雅晴(経営学研究科・商学部教員)



TN会(富永ゼミ 昭和31年卒)

とき : 平成30年4月4日(水)

ところ:グランヴィア大阪 しずく

TN会は交通経済学の故富永先生の昭和31年卒のゼミの集まりだけあって、交通関係には縁が深い。学生時代は先生の顔でしばしば交通関係の現場見学を行っていたが、今回はその延長で最近の変貌著しい大阪駅の中に場所を設定した。この辺りはゼミナリス滕の故北村さんが旧国鉄時代に勤務していた時代の縄張りで、彼の幹事で何度も集まった懐かしい界限でもある。

以前はゴルフや旅行も含めて何回も集まったが最近は

会員のひろば



年に2回が定例になったが、集まるたびに友人の訃報を聞くのが悲しい。今回は昨年春に元気で参加していた土屋さんの訃報を聞き全員で冥福をお祈りした。

いつものごとく話題は近況と健康維持で楽しい時間を過ごした。

解散後は各自大阪駅構内の施設や隣接するグランフロント大阪などを見学した。

次回は坂田さんの幹事で秋の有馬温泉を楽しむことに決定した。

今回の参加者 二宮、横山、細谷の各ご夫妻、坂田、扇、橋本 計9名



生川ゼミ同期会 (商昭和43年卒)

とき : 平成30年4月5日(木)

ところ: ホテル コンラッド大阪

レストラン「C:GRILL(シーグリル)」

毎年4月が恒例の標記会合が、原木君の幹事で大阪にて催される。早いもので、今年は卒業50周年の節目に当たる。

参加者: 7人。内訳は近畿在住者4人、首都圏2人、東海地区1人。会場は、四ツ橋筋/渡辺橋南詰・朝日新聞社ビル跡に前年6月にオープンした、ホテル/コンラッド40Fのレストラン。地上200mよりパノラマビューを楽しむことが出来る。



この1年の近況を語り合う。その話題は高齢化に伴う体調不良や病氣療養 等がメインになるのはやむを得ない。だが、皆の話す声は今も力強く張りがあり、意気軒昂。

この分では、本会はまだまだ続行できるものと実感する。

そして、次回は来年5月8・9日 伊勢志摩1泊旅行を決め、再会を約して散会。

【写真】

前列左から: 田村史郎・三杉貞彦・柳原仁彦・前島浩

後列左から 中村俊恒・原本文吉・保谷美苗 (以上)

最後に当日の本会を詠める、筆者/前島の拙歌を記載させていただく。

春うらら 商都に集う 我らゼミ

友と歓談 ころ和むも

前島 浩(商昭45卒)

同好会

第15回銀座有恒会 新年食事会

とき : 平成30年1月20日(土)

ところ: 東京都中央区 銀座ライオン7丁目店

当会が発足して満5年が経過した。今回の食事会には会員総数37名の内22名が出席し、過去最多となり大いに賑わった。本年5月以降、運営委員6名が3グループで年2回のハイキングと食事会を運営することが了承された。そ



の後、幹事より今関心の的である「市大と府大の統合」に関し説明があり、出席者から様々な質問や意見が出された。今後、統合問題の推移を注意深く見守りたい。他に幹事から「二十四節季・七十二候・月の呼び名」等の資料が配布されたが、時間の都合で説明は省略。続いて有馬さん(商昭40)の挨拶後、乾杯して食事・懇談となった。しばらくして出席者一人ひとりからスピーチがあり、近況報告・学生時代の出来事・サラリーマン時代等の話に花を咲かせた。一人3分のスピーチを予定していたが、話しの途中で他の出席者から質問やツッコミもあり時間内に収まらなかった。西尾大次郎さん(経昭35)は「新年に当たっ



て」の思いをスピーチとレジメで告げられた。柳原さん(法昭36)は虎燿会(阪神タイガース矢野二軍監督を応援する会)の会長として、「昨年12月第4回虎燿会を大阪で開催。矢野監督を囲み、荒川学長や有恒会本部の皆様もご出席頂いた」ことを報告された。松本さん(経昭43)は「アンガーマネジメントをご存じですか?」というレジメでスピーチ。「怒りの感情を発散して、後で後悔しないよう上手にコントロールすること。怒りのピークは長くても6秒。怒りの衝動をコントロールしたらこの世の中がもっと上手くいくし、夫婦円満になる」とのこと。吉田さん(商昭50)は「私の堺の実家近くに女優沢口靖子さんの実家があり、最近、本人と挨拶した」とのお話し。次々と出席者の興味あるスピーチに場の雰囲気非常に盛り上がった。話しが尽きなかったが、再会を期してお開きとなった。

杉本クラブ新春例会

とき：平成30年1月25日(木)

ところ：一合(荒川区西日暮里)

杉本クラブは、四半期ごと開催の親睦会です。道路に未だ雪の残る開成高校前の酒処「一合」に11名が集いました。(写真参照)今回のスピーチテーマは、時節柄「平成30年、私の計画(目標)」。

母校市大を卒業して幾星霜、この齢になりますと一年、一年が勝負であると、改めて背筋が伸びる思いです。

まずは、連絡事項として市大と府大統合の現在の状況並びにクラブメンバー岡本弘二(経昭52卒・青桃会)さんの出展案内。

藤村さんの挨拶、奥山さんの乾杯で、会はスタート。「この頃は、乾杯よりも献杯の機会の方が多いな。」と会場の声。2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京五輪のボランティアを目指す(経昭50卒)、更には、昨年合格した通訳案内士資格を活かした観光ガイドを始動(経昭44卒)。奇しくもボランティアの志を有する二人が各々、ヨーロッパアルプス、ヒマラヤトレッキングを目指すとのこと。ユニークなところでは、手作りチェロの完成(工昭45年)、灯



台巡り(経昭44年)や酒に強い体質づくり(工昭45年)を目標に挙げられた人も。昨年の母の逝去を機にマンション自宅に仏壇の設置場所確保と言う深刻な目標を掲げる人(経昭44年)も。他には、世界遺産旅行継続(工院昭47年)、断捨離実行が二人(法昭46年)(経昭51年)。親睦の輪を広げたい(経昭44年)、あるいは、再就職を希望しているものの、面接試験で撥ねられ(上から目線で、面接官からの好感度低し(?))、今年こそは、再就職の実現を(商昭49年)。等、多士済々の面々が一年の計を披歴。

最後は、野田さんによる次回杉本クラブ春季例会(4月26日)開催の案内で、会は締められ、お開きとなりました。

第4回虎燿会(こようかい・矢野会) 大阪支部会開催

とき：平成29年12月13日(水)

ところ：大阪市北区 ラ・グリルルーデン

虎燿会は、第3回までは東京開催だったのですが、今回、柳原さんのご尽力により初めて大阪で開催されました。当日は冷え込んだ大阪でしたが、阪神タイガース二軍監督矢野燿大さんの登場により、会場は一気に熱気に包まれました。市大の荒川学長の開会のご挨拶に続き、矢野さんからはタイガースの今シーズンを振り返ってなどのお



話しをしていただきました。お話しにはチームの反省点や今後の展望などもあり、皆さん、集中して聞いていました。その後、フランス料理を楽しみながらの歓談となりました。それからは皆さんから質問の嵐でした。皆さんはタイガースを愛する気持ちが強く、「優勝のために何が必要か」などと、途切れることなく矢野さんへの質問が続きました。矢野さんは、それら一つひとつ丁寧に答えられていました。また、矢野さんは選手の心理の細やかなところまで良く把握されていることが伝わりました。そういうところから矢野さんへの信頼感が生まれるのだろうと感じられました。デッドボールへの対応なども深い考えに基づいている

ことが分って驚かされました。市大猛虎会会長をしている現役の小林君からは「バレンティン選手と矢野さんの乱闘シーンを間近にみた」という報告があり、座を湧かせました。今シーズンはいろいろ誤算があったものの、広島に続く2位と健闘しました。やりようによっては来シーズンの優勝も手が届く位置まで来たので期待も高まるものです。矢野さんは二軍の監督ということで一軍の直接的な采配から離れますが、金本監督と密接に連携し、若手の底上げと相まって優勝に邁進できると思います。終わりには一軍の優勝と矢野さんの二軍での健闘のために今後ともに応援を続けていきたいと思います。皆さん、心を一つにしました。本当に良い支部会となりました。(御田)

大阪市立大学上海友好会 新年会&送別会

とき : 2018年3月11日(日)

ところ : 海底撈火鍋(北京西路店)205室、206室、207室
(円卓3卓)(上海北京西路1068号3階)

参加者:26名



アットホームな雰囲気の中で新年会は盛り上がりしました。

- ①上海友好会の吉田会長から挨拶を贈り、乾杯の発声より新年会がスタート
- ②帰国の片山淳様、岸本行高様あいさつ
- ③自由交流時間(自己紹介、名刺交換)
- ④お終い挨拶:上海友好会吉田会長、片山淳様、岸本行高様
- ⑤記念写真 (大阪市上海事務所・呉 宇)

代打の神様:八木裕さんとの食事会の開催 阪神タイガースを応援する会

とき : 平成30年3月31日(土)

ところ:半蔵門ダイヤモンドホテル金剛飯店

今年も桜の花吹雪が舞う頃、プロ野球ペナントレースが始まり、虎ファンが胸をときめかす時期が到来した。今回、柳原さんのお取計らいで元阪神タイガース八木裕氏を食



事会にお招きした。当日、八木さんは東京ドームでの巨人阪神戦のラジオ中継で解説をされていて、放送終了後、会場に駆け付けていただいた。「遅くなってすみません」と会場の引戸を開けて現れたのは八木さんだった。エネルギーで精悍な容姿は現役時代の八木選手を彷彿とさせた。乾杯後、食事しながら私たちは八木さんから「タイガースの球団経営、チームの戦力・戦略分析、プロ野球解説者・評論家の仕事」等についてお話しをお聞きした。それによると「阪神ファンは他球団のファンよりも5倍も熱烈。ファンが新しいファンを球場に連れてきて増殖していく」また、「球団として女性を重視し女性ファンの獲得を図っている。若い女性、幼児を抱き抱えた母親、その子が大きくなり阪神ファンとして成長していく」中長期的な戦略だ。選手育成に関しては、「選手を伸ばしていくのは難しいが、選手をつぶすには時間がかからない」多くの選手がダメになる姿を見てこられた八木さんの言葉は重い。「ゴルフのように止まった球を打つスポーツはフォームが大事だが、野球の場合、それよりも投手の投げる球種を早く見極め、それに対応してボールをとらえるのが重要だ」一瞬間に集中し代打で通算98打点を挙げられた「代打の神様」ならではの至言だ。

八木さんの野球理論や中長期的な視野に立ったお話は企業経営や人材育成に大いに参考になる。多岐に渡る質問にも八木さんは気さくに丁寧に答えられ、私たちは素晴らしい一時を過ごした。タイガース優勝と次回の食事会開催を期しお開きとなった。 樋上晴雄(法昭45卒)
＜出席者＞八木裕氏、柳原恒久(法昭36卒)、有馬映也(商昭40卒)、吉田稔(商昭50卒)、若尾壽幸(法昭58卒)、樋上晴雄(法昭45卒)

よさん会<よさん会開催>

とき : 平成30年4月3日(火)

ところ:東京日本橋東レ社員倶楽部

同会は昭和43年経済学部卒業の同窓会です。

参加資格者は昭和43年以降の卒業生なら参加可能です。辻本敏彦さん、東芝で静岡、東京支店長など歴任されま



銀座有恒会・春のハイキング

とき：平成30年5月26日(土)

ところ：東京赤坂周辺

有馬さん(商昭40)と共同幹事として参加し、12名の皆さんと一緒に春の快適な1日を過ごしました。自然の風景を楽しみながらお弁当を食べ一定の距離を歩くのがハイキングとしたら、今回は14時に「赤坂駅、TBS前広場」(東京の中心街)に集合で少し異例ですが、何しろ銀座有恒会ですから。

赤坂周辺の神社巡りがメインです。順調に散策すれば2時間、元氣よく気合を入れてスタート。最初は有名な「日枝(ひえ)神社」。高い登り階段のすぐ横にエスカレータあり。ハイキングにきて神社の階段をエスカレータで登る。＜スポーツジムに車で行って、チャリをこぐ＞川柳の世界です。徳川家康ゆかりの神社です。お賽銭、2礼2拍1礼の作法に乗っ取りハイキングの無事故を祈願。「神仏は尊んで、神仏に恃まず」が私の信条ですが、今回は参加者全員の無事故を祈願する。全員で記念写真。まだ元氣です。

次に8代將軍徳川吉宗ゆかりの氷川神社へ。和歌山県出身。享保改革で有名、故郷の先輩でもあり賽銭を弾む。笛の音と伴に結婚式の参拝行列に遭遇(時間15:5)。樹齢400年のイチヨウの巨大樹木。幹は朽ちていたが枝・葉は青々。氷川神社を出て直ぐ、住宅の一角に「勝海舟邸跡」。今は「BAR」の看板に。次の目標は乃木神社。道中は赤坂の名前の由来のようにアップダウンの多い、まさに街中ハイキングです。疲れか隊列も乱れがち、12名の点呼が必要。この日が神社の傍の旧乃木邸一般公開日、見学は順番待ち。ここから学習院まで馬で通っていたとか。途中、高橋是清公園、伝統工芸センターで息抜きをして、最後は豊川稲荷神社の赤坂別院に、金運増長・開運招福の願いをし、長旅の疲れを癒す会食の場に全員で雪崩込みました(17時予定通り開宴)。お疲れ様でした。乾杯!! 次回は10月27日(土)国技館でお馴染みの両国界限の予定。

松本(経昭43卒)

した。

以前、高輪の東芝社員倶楽部を使っておりましたが、最低でも役員1名以上が参加しないと使用不可となり、現在上記倶楽部を紹介し、お気に入りになり最近毎回ここで開催しております。

場所を紹介したので、参加する事を促され、数多くの先輩の方々と出会い、大変良かったです。今回は11名出席。各自スピーチで平井さんが昭和43年工学部応用化学卒、ボート部所属、母校の現役生の活躍ぶり、日本の大学では、一橋大に次ぐ2番目に古いとの事。

ボート祭話がにぎやかになりました。

次に田中さんは昭和43年経済卒、近畿日本ツーリスト勤務後、大学で教鞭されています。インバウンド消費の統計は訪日外国人の自己申告の統計と驚きました。今般3代目の代表幹事の木野さん、昭和43年経済卒、全日本空輸(ANA)に関し中国人は勘違いして、空をからっぽと解釈し、いつでも席を取れるとか、いつでも泊れるので苦情が多いとの事です。

次に若尾が今年度東京有恒会開催日時等を連絡。昨年、7月に癌が見つかり、初期で助かりましたので健康診断の重要性を伝えました。

次に松本さん、昭和43年経済卒、塩野義製薬定年後、東和薬品でMRをされ、お医者様との長年積み重ねられた巧みな話術豊富な話題を持っておられます。

1つは、話す時には最後に訴えたい事を話す事が1番印象に残る。

2つは夫婦の仲良くする秘訣。夫が妻が怒っている時には6秒我慢すると喧嘩にならないとの事です。2時間20分行ない、次回2月6日17時40分開催決定。

ふるってご参加下さい。 若尾壽幸(法昭58卒)



同窓短信

「60年前の卒業式」一懐かしい日記から

久保多信夫(経昭33卒)



今年は市大を卒業して丁度60年。書類を整理していたら60年前の卒業式当日(22才)の日記が出てきた。そのまま記載。

昭和33年3月25日(火)曇のち雨

学生生活最後の卒業式が午前10時から杉本学舎講堂で執り行われた。

9時半、校庭には大勢の卒業生たちが複雑な気持ちで名残を惜しみ話し合っている。式は学長の細谷雄二氏が登壇、学士試験合格証書の授与に続き、訓示。『諸君、卒業おめでとう。本日は自己の選んだ道をめざし人生第2のスタートを切る生涯転機の日である。これからの仕事は自己の生活の糧を得るためだけでなく、他人の生活向上をも重要な目的とするものだ。友愛の念と責任感をもって社会に奉仕するという心掛けが大切だ。諸君には何ものにも代えがたい「青春という活力」がある。この力と熱意を傾注すれば未来は必ず開ける。銭けの言葉を贈る。ゲーテの寸言、「有能な人は常に学ぶ人である。』つづいて中井光次大阪市長、吉宗市議会議長の祝辞、卒業生代表の答辞があり、「グリークラブによる「蛍の光」合唱で幕を閉じる。

このあと12時より、第17教室で飯田繁経済学部長から挨拶と卒業証書の授与があった。『諸君は今、午前8時のところにいる。これからの時間経過はようしゃなく速い。決意を新たに前進行ってほしい。社会に出れば諸々の現象がゆがんだ形で現われてくる。どんな現象であろうと、「本質を考えぬく力」さえあれば、正しく対処できる。もう一つは、諸君には「市大卒」というレッテルが一生貼られていることだ。忘れないでいてほしい。』

続いて1人1人に卒業証書が手渡された。友らと別れを惜しみ、馴染んできた校門をあとにする。雨が降り出し、勢いを増してきた。

市大合格電報を発見

加藤 修(法昭43卒)

本年は大学卒業後50年を迎える記念すべき年に当たる為、5月にA・B・C3クラス合同の同窓会の開催を企画し、その為の資料として学生時代の写真等を捜していました。実家へ帰り、亡き母が大事にしていた書類箱を丹念に調



べていたら、驚くことに54年前の書類即ち昭和39年受験時に生協に依頼した「合格電報」、「受験票」、「合格通知書」が出てきました。小生は、よもや『「シダイ」ゴウカク』と書かれた合格電報

等を半世紀以上も母が大事に保管していたとは夢にも思いませんでした。合格通知書によると、入学料は大阪市民は3千円、その他7千円で、授業料はI部前期6千円と記載してありますから、月額1千円で現在の国公立大学の入学料及び授業料から比較すれば、驚きの価格といえます。



昭和39年前期当時はまだ東海道新幹線が開業していなかった為、急行比叡に乗って、大阪へ来たことを昨日の出来事のように覚えております。小生の受験番号が42番だった為「縁起が悪い番号だな」と思ったことがありましたが・・・(今となっては、笑い話に過ぎません。)亡き母が大事にして何回もながめていたであろう「合格電報」を、卒業後50年の節目に発見したことは何かしら運命的なものを感じ、私の青春時代の宝物として今後も大切に保管していきたいと思っています。

馬術の呪縛

橋本章男(商昭38卒)



動物好きと言う事もあり、昭和34年市大入学と同時に馬術部へ入部しました。

当時は馬2頭の小規模なクラブでしたが、過去には幻の東京オリンピック(昭和15年戦争で中止)馬術大障害候補生に選出された実績や関西の強豪校として活躍した時代がありました。

先輩が自前で厩舎を建て馬も調達し、念願の「馬の居る馬術部」を実現した後に入部しました。御膳立てを整えて貰ったお蔭で馬術というスポーツに身を置き、馬を介して貴重な仲間を得ることができました。

就職後関西を離れ母校馬術部とも没交渉でしたが、とあるきっかけで馬術OB・OG会のお世話をする事になり

ました。「馬術」との2度目の関わりです。

馬術部は今年創立80周年を迎えました。8月の記念パーティで苦楽を共にした馬術部仲間と再会出来るのを楽しみにしている次第です。

「馬術」2文字の呪縛が解けず、今度は関西学生馬術連盟のお手伝いをしています。連盟では加盟13大学のOB・OGと学生が一体となって、競技会(障害・馬場馬術)の開催・学生馬術の発展に役立つ事業に取り組んでいます。

連盟の運営面で少しでもお役に立てればと思い、学生馬術を最初から勉強し直している今日この頃です。

写真映像作家として

松井みさき(経平7卒)



写真家になるために会社員を辞め、ニューヨークに渡ったのが2008年。映像も撮り始め、ショートフィルムがロンドンのレイナダンス映画祭、モナコ国際映画祭に入選し、気づいたら「film

director(映画監督)」になっていた。2016年より東京にも拠点をつくり始め、ドキュメンタリー映画「ケンジとケイスケ」がショートショート フィルムフェスティバル & アジアに入選した。20年前にマーケティングプランナーとして住んでいた東京に、渡米してこのような形で戻ってくるとは、夢にも思わなかったことだ。人生は想像できない。つまり自分の想像力など、たかがしれている。どんなに絶望的な状況に陥ろうとも、そこで自分の能力や幸せの限界を定めてしまわないことだ。これ以上悪くなることはないと思えば、逆にいいことがやってきてくれる。渡米も、今から思えばピンチはチャンスという発想の転換の結果だった。それを繰り返しながら今日もまた一日生きるのが、人生かなと思う。

新米個人事業主奮闘中

原 卓朗(商II平20卒)



はじめまして、原卓朗と申します。私は、大阪市内で公認会計士・税理士事務所を開設し、法人・個人の決算、確定申告等のお手伝いをさせていただいております。

昨年1月26日に税理士登録をしたということもあり、税理士としては今年が実質初めて個人の確定申告時期という繁忙期を迎えました。関与しているお客様の申告はもちろんですが、税理士会での確定申告会場での申告支援は、税理士ならではのことであり、経験値が増えたと感じます。それも終息したところで、当原稿に取り掛かって

います。

当事務所は、まだ1年半経ったところですが、振り返ると主に経理や財務に関連する業務が多いです。これから中小企業の決算申告がありますが、上場企業における連結決算や開示に関する業務にも関与し、起業やM&A等の相談もあります。開業当初は不安であったものの、そのときに考えていた「仕事が軌道に乗ったときの事務所移転」も検討し、より毎日が充実していくよう頑張っていこうと決意をあらたにしています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

八十二歳の手習い

西尾雅一(経昭34卒)



2年目に入るが毎月1回第3か第4月曜日、午後1時～5時うつぼ会囲碁同好会が日本棋院梅田囲碁サロンで開かれている。

私も参加している。実は60歳になった時、予てから取り組みたいと思っていた囲碁をやろうと、日本囲碁連盟の通信講座に入会した。教科書とミニ囲碁道具が送られて来た。が、私の囲碁はここまで。又々会社勤めをすることになってしまった。

ありがたいことに、「うつぼ囲碁同好会」を開こうということになった。

紆余曲折があったが、現在の日本棋院梅田囲碁サロンに定着して2年目に入っている。

会員諸兄に叱咤激励され、まことに不勉強なる態度であるが、やっと囲碁を学ぶ場を与えてもらった。「八十二歳の手習い」である。

現在加入者は8名(下記)

池田則一、大波多完二、尾形融彦、斉藤三朗、名倉勝、濱田明朗、藤井充博、西尾雅一 入会希望者来たれ。囲碁のレベルは問わない。

流れに身を任せる

山下 翔(経平20卒)



私は、現在、大阪で弁護士をしております、平成29年7月には、本町でリトラス弁護士法人を設立して独立開業し、税理士と連携して業務に従事しています。

市大在学時は、経済学部部に所属し、弁護士になるとは想像もしていませんでした。在学当時を振り返ってみると、手話サークルに所属したり、バンド活動をしたり、教職をとったり、就活もしてみたりと、まともになく、色々なことをしてきたように思います。その中で様々な

人と出会い、現在までずっと良い関係を続けてくることができました。

今回、たまたま市大の同窓会に参加して、この投稿をする機会を得ました。

この4月からは、行きつけの居酒屋の店主と、その居酒屋で意気投合したお客さんと一緒に、大阪梅田で「スタンド酒場ずいき」という立ち飲み屋を開店しました。

今後どうなっていくのか全く分かりませんが、これからも、流れに身を任せつつ、出会った人との関係を大切にしていこうと思います。

母校の有名教授

山本榮三(商昭32卒)



今頃になって、母校におられた有名教授のお話をもっと聴いておけばよかったと思うのだが、もはや仕方のない話である。在学中は余り知らなかった方で、角田文衛先生は数年前に「平家後抄」とい

う本を読んで、ぼんやりとお名前を思い出し、最近、日経の文化欄を読んで先生の業績を知った様な始末である。文学部の授業に潜り込んで一回でもよいから、講義を聴いておけばよかったと思う。最も商学部の勉強も碌々出来ていなかったのも、実際にはあり得ない話であるかもしれない。序でに、入学した時には既に大学にはおられなかった南部陽一郎先生の素粒子論も聴いたところで、全然分からなかっただろうが、聴いてみたかったものである。一時は乗鞍山頂に大阪市大宇宙線研究所があったくらいだから、面白い話が聴けたかもしれない。しかし、梅棹忠夫先生はまだ大学におられたので、文化人類学の講義は聴けたのではないと思う。大阪市立美術館の館長をしておられた望月信成先生の講義は聞かなかったが、美術研究会の四国旅行に参加してお話を聴く機会があった。とても話の上手な方だった。商大の看板教授の村本福松先生の講義は特講ということで一度聴かせて頂いた。戦前のハーヴァード留学経験をお持ちだったから、色々訊けたと思う。恒藤恭学長の法哲学の講義はもうなかったが、様々な式典でのご挨拶は聞いていたし、一寸お話をする機会もあった。法学部の西原寛一先生の会社法の講義は理路整然として明解であった。面白いのは「君たちは私が今話していることが本当に必要になるころには、その内容を忘れていくことだろう」と仰ったことだ。後年、勤めていた会社の経営上大きな問題が出てきたときに、その通りになってしまった。ご存命であれば、教を乞いたかったくらいだった。肝心の商学部のゼミは木村和三郎先生で、会計学の理論的な話とは別に色々な処世訓を聴かせて頂いた。

読者の声

「大阪府大との大学統合に思う」

山本義彦(経昭44、院昭48卒)

この間、大阪府と大阪市の統合協議が進んできていると承知しております。しかし府と市の統合についても今後まだまだ乗り越えるべき課題が山積しているはずで。筆者は近代日本経済史と地域史、大学史を研究し、かつ国立大学役員(理事)等を務めた経験から見解を表明します。

そもそも公立大学の法人化に先立って展開された国立大学法人化は、当時の遠山敦子文部大臣のプランから具体化されてきましたが、その狙いは、第一に大学側の国家財政を通じた縛りを解き放ち、自由度の高い運営を目指すという建前と、第二に大学間統合を加速させるということによって国家の財政圧縮に資するという狙いが重なりました。結果としては国立の単科大学の統合(東京水産大学と商船大学)、医科大学の総合大学への吸収等、大阪外国語大学の大阪大学への統合にいたりしました。しかし大学の自由度は逆に文科省の財政合理化＝縮減を通じた介入度が高まっているのはご承知の通りです。京都大学長を始め法人化が逆に研究水準や教育レベルを低下させてきた危惧を表明するほどです。

私はこの経験から、市大と府立大学との単一の法人組織にあっても、それぞれの歴史的特色を尊重し、二大学の一層の発展を進める経営に務めるべきであろうと思います。この道筋はアメリカの州立大学の多くの組織形態に学ぶべきだろうと思います。私が特にかかわったカリフォルニア大学の場合、バークレー校を基幹校として10校がそれぞれの個性的な展開を示して国際的にも高い評価を得る大学として発展し続けています。まして市大と府大は独自のそれぞれの歴史を大切に保存し一層高いレベルへの発展を目指すことが可能であろうと考えます。

私流「有恒」曼荼羅～祝合冊～

福井康子(文昭34卒)

「有恒会」命名の拠り所は「孟子」の名言からとの事、「有恒會報」と「同窓会報」の誌面に初めて知りました。新鮮な驚きです。

『無恒産而有恒心者惟士為能』(孟子梁惠王上)とは、「恒産無くして恒心有る者は、惟(ただ)士のみが能く為す」。続けて孟子は、『若(もし)民則(すなわち)無恒産、因(よ)りて無恒心』とも王に奏上しています。

民は、日々一定の生業に就き安定した「産」を保つなればこそ、その心も精神も揺らぐ高く侍し得るもの、との孟子の言は古き中国ならずとも古来永遠の人心の真理を観破する名言です。

願わくば我らは「産」の有無に拘らず「有恒」(常に変わらない正しい心)の志を侍して行こう。

さて、ここから私流に・・・。

何やら熱い吐息が私の首筋にかかります。無論孟子さまの。

『然れども汝もし不運に「無恒産」に陥り、一瞬「無恒心」に至るも須臾(しゅゆ)に「有恒心」に立ち帰れ、為に日々「有恒心」たれ、「有恒心」こそは「有恒産」を為す。而して苦難予測の将来、大阪市大卒業生の魂の在り処(か)とも為らんや』と。

2018年新年所感「克」

佐武博司(経昭和32卒)

謹賀新年 いつも皆さまのご健筆や風物写真などを楽しませていただき、ありがとうございます。

歴史や文化、衣食住など幅広い分野に好奇心を持ち、頭と足を使い、それを文・絵で表現し発信する。まさに“人

生100年時代”の生き方を示していただいております。

私はといえどもともと無趣味なうえに2012年2月頸髄損傷以来のリハビリ中の身。

私が発信できるものがあるとすればリハビリ体験にかぎられるのですが、何かのご参考になればと今年も私なりの思いとか願いを発信させていただければと存じます。

昨年末のこと。

12月21日(木)、S施設午後の体操の時間では、2017年を象徴する漢字・一字“北”が話題になりました。

スタッフの方から“皆さん各自の1年を表す一字がありますか”との質問があり、私は“克”(克己心の克、コク・カツ)と答えました。これに対し、“どういうことからこの字を選んだの?”との質問がリハビリ仲間(女性)からあった由。

私は“6年近く前の頸髄損傷による両手足麻痺の車いす生活から、何としても再起するんだ、リハビリは根気、と自分に言い聞かせながらリハビリに取り組んできた。

このことから恥ずかしながら毎年「克」を自分に課している”との趣旨のことを申しました。

今年も“克”をキーワードにリハビリに取り組みます。

皆さま、今年も心豊かに、健やかに過ごされんことをお祈りいたしております。(2018年1月5日)

化学で 未来を 変えるの



ダ

株式会社 **ダイセル**

大阪本社 〒530-0011
東京本社 〒108-8230

大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB
東京都港区港南 2-18-1 JR品川イーストビル

TEL06-7639-7171
TEL03-6711-8111



同窓生の図書紹介

龍馬が惚れた男

一明治維新を財政面から支えた越前藩士由利公正
仲元俊二（経昭40卒 ペンネーム：仲 俊二郎）

龍馬は暗殺される五日前の手紙で、新国家の成否をこの男に託した。

福井藩家老宛てに手紙を書き、三岡八郎（後に由利公正と改名）を新政府に財政責任者として出仕させてほしいと懇願しているのだが、最近この手紙が発見された。



明治維新の立役者といえば西郷隆盛を思い浮かべる。しかし、軍事の西郷を財政面から支えた由利公正なくしては、維新は成功しなかったであろう。由利公正は疲弊した福井藩財政を立て直し、新政府に出仕するや、太政官札を発行して、混乱極まる幕末維新の財政の基礎を確立した経済人である。

五箇条の御誓文を起草した人物としても知られる。

振り返って現在の日本は未曾有の国債発行高で前途は真暗だ。

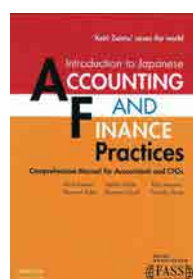
だが今この時期だからこそ、由利公正の斬新な発想から、その解決策のヒントを見出せるのではないだろうか。

（栄光出版社1600円＋税）

Introduction to Japanese Accounting & Finance Practices (税務経理協会)

青山隆治（経平元卒：コンサルタント・税理士）

私は平成元年本学経済学部を卒業、日本生命保険相互会社で主計業務等に従事した後、幾つかの会社で経理・財務を経験、現在、経理・財務領域のコンサルティングに従事しているコンサルタント・税理士です。



以前、有恒会報でも取り上げていただきました『「経理・財務」実務マニュアル』（税務経理協会）の英語版をこの度出版いたしました。

本書は、我が国の経理・財務業務のエッセンスをわかりやすい英語で解説した書籍であり、主に日系企業の海外子会社の担当者向けに書いたものですが、経理を英語で身に着けたいという方にもピッタリの入門書です。

昨今経理・財務の世界は、SOX（内部統制）やIFRS（国際財務報告基準）の流れをうけ、国際的な標準化が進んできたため、会計基準にあまり大きな違いは見られなくなっていますが、我が国特有の業務プロセスなどは日本の強みがあるのではないかと考え、そのような経理実務を英語にして、「日本的経理・財務」を世界に広めるために書きました。

多国籍企業の経理・財務部門にお勤めの方はもちろんのこと、将来多国籍企業で活躍されたい学生さんにも読んでいただけますと光栄です。

『醫譚』106号

田中祐尾（医昭44卒）

日本医史学会関西支部機関誌で創刊が1938(昭和13)年。戦時中の紙の不足による一時廃刊期間を経て現在復刊106号通巻123号を経る。公的刊行物以外民間の登録学術誌としては大阪で



最古の一つとされる。表紙「醫譚」の二字は緒方洪庵の息子収二郎翁の揮毫で、創立者三人衆の一人が洪庵夫人八重の実家億川家（名塩）の甥摂三氏であった。伝統的に記事は適塾関連やシーボルトとその弟子たちの大坂での歴史が多くその後、薬事、漢方、戦史、看護史、歯科学、地誌、風俗といった庶民的内容が増える。医学医療にこだわらぬ多くの分野の投稿が主流で最近では文芸記事も載る。初代編集者中野操氏、二代長門谷洋治氏を継いで現在本学医学部44年卒田中祐尾が三代目編集者と会の事務局長を兼ね医学部学舎で支部学会主宰など頑張っている。国立国会図書館・ハーバード大学医学図書館などへ収書。年会費8,000円で年2回発行。創刊号以降の全巻USB作成頒布中。各時代を反映した生の内容が興味深い。

大阪「断刑録」—明治初年の罪と罰—

牧 英正（法学研究科名誉教授）

安竹貴彦（法学研究科教授 法昭61卒、法院修了）

明治維新直後の大阪の刑事裁判記録（明治初期の10年間）を日本法制史の大家、牧先生（小生も50年前に教わった）と師弟関係にある安竹教授が、大阪地検旧庁舎地下室に奇跡的に保管されていた超膨大で貴重な資料と格闘されまとめられたものである。



「断刑録」の書名からの「堅苦しい、とっつきにくいのでは」とのイメージとは異なり、安竹教授の「解説」もあ

り、判りやすく読み進んで行く内に時間を忘れるほどで、裁判記録(「前代の後始末」「最後の仇討ち」「新政のきしみ」「主殺し・親殺し」「殺人・強盗・窃盗」「痴情の果て<姦通・密通等>」「芸娼妓の開放」「贖金」「詐欺・かたり」「流言・政治批判」「西洋人の犯罪」「市井の触法<男女混浴・リンチ・酒乱等>」「役人の職務違反」「囚人あれこれ」等々合計175件)を通し、当時の激動の大阪に生きる市井の人々の生き様が生き生きと描かれた形になっており、誠に興味津々の内容である。

本年は明治維新150年、刑罰を軸とした明治初期の大阪の統治(司法・行政)を垣間見る歴史書であり、ご一読をお勧めする。

(阿吽社 2017年10月 2,000円+税)

植田浩吉(法昭44卒)

熟練・分業と生産システムの進化

坂本 清 著(大阪市立大学名誉教授)

もの作りには3つの命題がある。第1が「何のために作るのか、誰のために作るのか」であり、第2が「何を作るのか、どのようにして作るのか」であり、第3が「どこで作るのか、誰が作るのか」である。本書は、このような視角から、より高品質な製品をより効率的に生産し、速やかに消費に結びつけるための組織体制である生産システムの発展過程を、「熟練と分業」をキーワードにアメリカ産業革命からIoTと環境の時代に至る5つの



フェーズに分け、各フェーズの時代的背景と生産システムの特徴とを明らかにした全12章449頁の大著である。

5つのフェーズと主要な内容を上げれば、第1フェーズが「自立統合型生産システム」で、アメリカ産業革命期の技術的・経済的特質とテイラーシステム、ガントシステムを取りあげ、第2フェーズ「垂直統合型生産システム」ではヘンリー・フォードの経営思想とフォードシステムの特徴を詳細に分析し、第3フェーズ「柔軟統合型生産システム」では日本的生産システムを代表するトヨタシステムの生産原理の革新について論究している。また、第4フェーズ「分散統合型生産システム」ではICTを技術基盤とするモジュール型生産システムの特徴について持論を展開し、最後の第5フェーズ「循環統合型生産システム」では人類の生産活動の意義と近年の地球環境問題について論じ、「人類生存の危機」に対してIoT・AIを活用した自然・生産・生命の統合システムを提案している。

本書の特徴の一つは、もの作りの原理の歴史的革新が、一企業の競争力のみでなく国家の盛衰にも影響を及ぼすことを解明した点にある。長年の研究の集大成として出版された本書は、近年まれに見る経営学界の成果であろう。経営学のみでなく、経済学や社会学に興味のある人たち、意欲ある学生たちには是非勧めたい著作です。



Mie Kotsu Group

三重交通グループは、安全、安心、安定、快適なサービスを提供します。

勝川サザンクラスα

東急ハンズ名古屋店

(三交クリエイティブ・ライフがF&C展開)

三交イン伊勢市駅前

● 運輸業 三重交通株式会社 名阪近鉄バス株式会社 三交伊勢志摩交通株式会社 三重急行自動車株式会社 八風バス株式会社 株式会社三交タクシー ● 不動産業 三交不動産株式会社 株式会社三交コミュニティ 株式会社三交不動産鑑定所 ● 流通業 三重交通商事株式会社 株式会社三交クリエイティブ・ライフ 株式会社三交シーエルトゥー 三重いすゞ自動車株式会社 ● レジャー・サービス業 株式会社三交イン 鳥羽シーサイドホテル株式会社 三交興業株式会社 御在所ロープウェイ株式会社 株式会社三重カンツリークラブ 株式会社松阪カントリークラブ 名阪近鉄旅行株式会社 株式会社観光販売システムズ 株式会社三交ドライビングスクール ミドリサービス株式会社 三交ウエルフェア株式会社 三重県観光開発株式会社

三重交通グループホールディングス
〒514-0032 三重県津市中央1番1号 <http://holdings.sanco.co.jp>

追悼のことば



山崎慶郎さん お心安らかに

福岡美彦(文昭32卒)

山崎先輩(文昭29卒)と産経新聞大阪本社編集局ではじめて出会ってから半世紀以上経つ。取材記者から紙面作りをする整理記者に異動して途惑っていた私に優しく指導してくれた山崎さんの温顔が忘れられない。



私が新聞作りから離れて阪急のホテル事業に関係してからもご縁は変わらずお付き合いが続いた。とくにご愛息の敬君の就職のお世話をしてから更に深まって行った。ご主人と二人で私の許を訪ねて来られた時のことは今も鮮やかに覚えている。ふだんの寡黙な山崎さんと違って愛児を思う気持ちがひしひしと伝わって来て一も二もなくお引き受けした。

ご子息敬君によるとプロ野球のソフトバンクは南海ホークス時代からのファンで、親子そろって大阪球場で観戦するのが大きな楽しみであった由。

豪快な半面、繊細な一面もあり、十年前に逝かれた夫人とのお住まいを大事にされ、亡くなるまで一人で守っておられた。

(平成29年12月15日ご逝去)



迎えられた時のことです。何かお祝いしようと院生がお金を出し合って赤いネクタイをプレゼントしました。たぶん選んだのは私です。高級なものではなかったはずですが、先生は殊のほか喜んでくださり、「このネクタイに合うスーツを作る」と言ってくださって、貧乏学生だった私を仰天させたのでした。

思いだすのは人として魅力的だった先生ばかりで、弟子としてお恥ずかしい限りですが、そのうちそちらへ参りますので、その時はまたよろしくご指導をお願いいたします。

(2018年1月14日 97歳 ご逝去)

稲浦康稔先生の思い出

大学院生活科学研究科生活福祉学専攻
後期博士課程昭和61年修了

市川(柿坂)緑

稲浦康稔先生は1977年4月より1984年3月まで生活科学部児童心理学講座教授、1982年4月から1983年9月の間は生活科学部学部長を務められました。



稲浦先生が市大におられた1978～1984年は私の長い大学院生活の時期とほぼ重なります。生涯の仕事となった臨床心理の基礎をご指導いただいたことになります。ここ数年は年賀状のやり取りのみになっていて、最後のお別れができなかったことが悔やまれます。

先生の思い出で一番印象的だったのは、先生が還暦を

弓削 治先生を偲んで

昭和38年被服学科卒 生活科学部

元教員 佐藤昌子

弓削 治先生は、2017年9月25日 87歳にてご逝去されました。謹んで哀悼の言葉を述べさせていただきます。先生は

1952年5月助手の着任より～1993年3月生活科学部教授ご定年ご退職までの永きにわたり、家政学部被服学



科、生活科学部生活環境学科の多くの学生を指導されました。私も先生の教え子の一人です。私が4回生になり卒業論ゼミは被服整理学を専攻しましたが、当時繊維産業の最活性化時代でした。弓削先生は繊維界の大御所田中道一教授の繊維材料学講座の助手をされていました。後に私も教員の一人として弓削先生には大変お世話になりました。先生のお人柄はひとを笑わせる忍術?笑わせた後

の先生のあの笑顔が忘れられません。弓削先生の近況は退職者会会報に投稿されたお元気な活動報告でしたが、突然の訃報に接し驚いています。先生!永い間有難うございました。どうぞ安らかに眠み下さい。



潮美先生送別会 白髪橋学会玄関にて
田中道一先生・弓削治先生・岩崎錦先生と被服材料専攻生



謹んでご冥福をお祈りいたします(敬称略)

物故者氏名	学部卒年	逝去月日
田部 邦光	経昭49	平成29/11/16
中田 實	経Ⅱ昭40	平成27/06/06
福富 彦衛	経昭29	平成29/10/07
南条 燿	経昭34	平成29/10
清家 尚	経昭34	平成29/12/15
河原 庄司	経昭40	平成29/12/17
山口 吉蔵	文昭55	
聖城 雅夫	法昭57	平成25/12/18
福入 昭二	商昭40	平成30/01/16
沢田 寿一	商Ⅱ昭29	平成29/12/20
芦田 信明	経昭29	平成30/01/18
徳永 進	学昭22	平成29/10/07
寺本 正治	法昭33	平成29/11/24
大谷 泰三	学昭27	平成29/12
坂口 仁	法昭37	平成29/12/18
藤木 清之助	学昭28	平成30/01/23
橋本 嘉雄	学昭25	平成29/07/13
藤沢 義彦	法昭43	

物故者氏名	学部卒年	逝去月日
山本 勲	法昭43	
福島 英二	法昭44	
納 宗一	法昭43	
中井 隆	法昭43	
名倉 健一	法昭43	
佐保田 昌平	法昭43	
安座 信雄	学昭23	平成28/08/21
横山 博一	経昭35	平成30/02/21
中野 義弘	商昭35	平成30/03/20
和井 光男	文昭35	平成29/01
山崎 慶郎	文昭29	平成29/12/15
山本 雅一	経昭59	平成30/03/11
松岡 勉	経Ⅱ昭51	平成29/12
田中 幸治	商昭43	平成30/1/26
野上 倍則	商昭35	平成30/01/10
畑中 治朗	修平13	平成29/08/17
浜口 六郎	学昭26	平成30/04/14

文化交流センター 談話室ご利用のおすすめ(大阪駅前第2ビル6階)

談話室の利用時間が平日は午前10時から午後9時になっております。土曜日は午後6時までです。

受付担当は、同窓会OBが担当しております。曜日別には、下記の通りです。

(月) 佃 貞夫 (法昭34卒) 陸上部OB
(火) 芝野弘之 (工昭44卒) 土木会事務局長

(水) 中村正治 (工昭41卒) 野球部OB

(木) 藤井政治 (商昭38卒)

(金) 泉 裕 (文昭32卒) 陸上部OB

(土) 芝野弘之 (工昭44卒) 土木会事務局長

卒業生・旧職員・職員の方ならどなたでも記帳の上、自由にご利用になれます。自販機がありますのでご利用ください。

(泉 裕)



各学部同窓会及び 本部事務局のお知らせ

全学同窓会事務局

全学同窓会・各同窓会総会日程

●全学同窓会

平成30年11月3日(土)／時間・場所詳細未定

●有恒会

平成30年6月9日(土)／13:00～／田中記念館ホール

●理学部同窓会

平成30年11月3日(土)／時間・場所詳細未定

●工学部同窓会

平成31年2月予定

●医学部同窓会

平成30年6月16日(土)／16:00～／医学部学舎 4 階

●生活科学部同窓会

平成30年11月3日(土)／時間・場所詳細未定

●看護系同窓会よつば会

平成31年2月予定

●創造都市研究科同窓会

平成30年5月11日(金)／19:00～／文化交流センター

各支部総会日程

6／ 2 (土) 京滋支部総会&新卒者歓迎パーティ
12:00～／琵琶湖ホテル

6／ 3 (日) 奈良支部総会&新卒者歓迎パーティ
13:00～／ホテルリガーレ春日野

6／23(土) 愛媛支部総会
12:00～／いよてつ会館

6／30 (土) 三重支部総会
17:00～／ホテルグリーンパーク津

7／14 (土) 大阪南支部総会(詳細別途)

7／21 (土) 南大阪支部総会(詳細別途)

8／25 (土) 姫路しらさぎ支部総会(詳細別途)

9／ 1 (土) 神戸支部総会&新卒者歓迎パーティ
16:00～／神戸銀行倶楽部

9／ 1 (土) 福岡支部総会(詳細別途)

9／29 (土) 東北支部総会(詳細別途)

10／ 6 (土) 東京支部総会
14:30～／東京六甲クラブ

11／10 (土) 北陸支部総会
12:15～／金沢東急イン

11／10 (土) 鹿児島支部総会
(時間・場所未定だが大阪にて開催)

11／11 (日) 北摂支部総会(時間・場所未定)

11／14 (水) 愛知支部総会
18:00～／名鉄ニューグランドホテル

12／ 1 (土) 宝塚支部総会(時間・場所未定)

※北海道、静岡は秋頃、徳島は12月、山陰は開催予定
だが、詳細未定。

新卒者歓迎パーティ日程

京滋地区 6／2(土) 12:00～／琵琶湖ホテル

奈良地区 6／3(日) 13:00～／ホテルリガーレ春日野

大阪地区 7／14(土) 11:00～／野のはなハウス

東海地区 7／18(水) 19:00～／パティオ伏見

東京地区 日時・場所未定

各委員会の活動

広報委員会

●「大阪市立大学同窓会報有恒」発行

(1月、7月の年2回)※2018年7月発刊

●全学同窓会ホームページ運営(1日、15日更新)

※15日更新は行事予定が主

●メールマガジン配信(毎月15日配信)

在学生支援事業委員会

●5／26(土)教員OB・OGと教員志望現役学生との交流会(14:00～ 高原記念館)

●6／30(土)公務員OB・OGと公務員志望現役学生との交流会(詳細別途)

●12／1(土)民間企業勤務OB・OGと民間企業志望学生との交流会(詳細別途)

他に「女子学生夢応援」シスタープログラム(OGと女子現役生との交流場)を企画運営、海外勤務経験のあるOB・OGと留学生との交流会、海外に挑戦する在学生・クラブ団体を支援します。

五代友厚記念事業委員会

1)五代友厚寄付講座「国際ビジネス演習」を平成30年前期に開講

2)「海外インターンシップ」実施 平成30年より実施

3)「五代友厚伝」(仮称)出版 3年以内に出版

4)「五代友厚展示」コーナーの設置

於 学術情報総合センター1Fにある大学史資料室一角

5)「五代友厚伝出版等基金」募金活動事務局

なお、上記の委員会に属さない部会(女性部会、若手同窓生支援部会)があります。

女性部会:5月、11月にイベント・交流会を開催

若手同窓生支援部会

- 7/28(土) 第7回卒業生のためのビジネス交流会
(詳細別途)
- 1/26(土) 第8回卒業生のためのビジネス交流会
(詳細別途)

(※)行事予定・各委員会活動の詳細については、
大阪市立大学同窓会(全学同窓会)HPをご覧ください。
<https://www.osaka-cu.net/>

全学同窓会ホームページとメールマガジンについて お知らせとお願い

全学同窓会ホームページ

全学同窓会・各同窓会・大学の行事予定・活動内容及び
支部・会員や在学生の動向など最新情報が、全学同窓会
ホームページから閲覧できます。こちらから検索してご覧
ください。

大阪市立大学同窓会(全学同窓会)

検索



メールマガジン

上記HP内容を抜粋したもの、大学広報室提供の最新情報
をまとめて、月1回15日に配信中です。メールマガジンで
希望の方は、HPトップページの右上欄「メルマガ配信希
望」からお申し込みください。また、皆様からの「記事投
稿」も大歓迎です。「お問い合わせ」にもご利用ください。

■全学同窓会事務局

06-6605-2113(平日の午前10時～午後4時30分)

■有恒会

■理学部同窓会

■工学部同窓会

■医学部同窓会

■生活科学部同窓会

■看護系同窓会 よつば会

■支部・ゼミ同窓会・他

■市大クラブ

■五代友厚銅像について

■「全学同窓会」の活動について

■「全学同窓会」の活動報告

■Topics

■会報アーカイブ

■メルマガアーカイブ

■学生のひろば

■市立大学ニュース

■会員のひろば

全学同窓会からのお知らせ

第17回ホームカミングデー

- 日時:平成30年11月3日(土・祝)
- 場所:杉本キャンパス

◆講演会 ◆同窓会総会・懇親会 ◆学長主催ウェルカムパ
ーティーなど 懐かしい母校でひと時をお過ごしください。

第21回大阪市立大学ゴルフコンペ案内

全学同窓会とOCUSA(大阪市立大学スポーツアソシエーション)共催でゴルフ
コンペが例年通り開催されます。

市大OB、OGの皆さん、又大学教職員の皆様、その他多数の方々の参加を歓迎します。

■日時:2018年10月25日(木) ■場所:飛鳥カントリー倶楽部

■申し込み期限:9月25日(火)

詳細の照会及び申し込みはOCUSA(担当:島田俊春)へお願いします。

TEL&FAX:072-285-3737

メールアドレス:toshinospring@gmail.com

土佐堀法律事務所

弁護士

大阪市立大学法科大学院 講師
関西大学法科大学院 教授

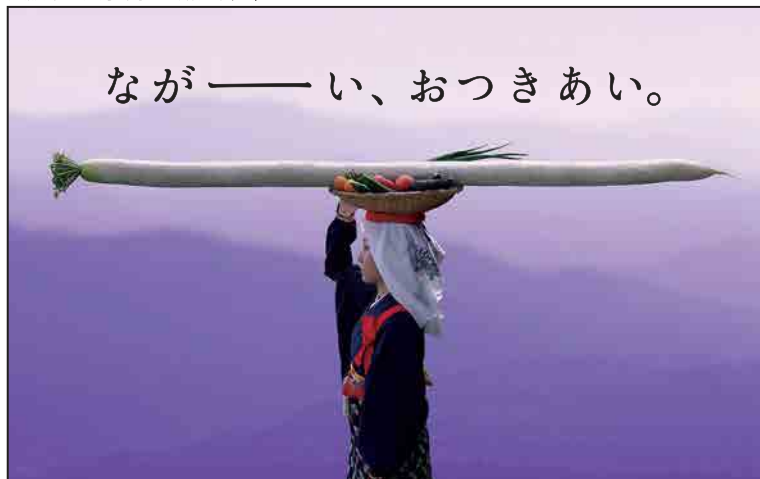
村上 幸隆

(法学部 昭和53年卒)

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満 5-11-7
サンク西天満ビル 2階

TEL 06-6366-5351

FAX 06-6366-5580



各種金利プラン充実

ニーズに合ったご提案

住宅ローン

資産運用

口座はスマホでベンリに

事業をしっかりとサポート

京銀アプリ

事業融資

京都銀行はさまざまなシーンで
皆様を応援します！

飾らない銀行

京都銀行



ツカキグループ

TSUKAKI

ツカキ(株) 塚喜商事(株) 京都和装(株)
マリエクラッセ(株) (株)タムラ (株)京朋

Growing Together

～共に成長を～

社長 塚本喜左衛門(S46 経卒)

グループヘッドオフィス

京都市下京区烏丸通仏光寺上ル二帖半敷町661番地

〒600-8412 TEL. 075-341-3547(大代表)

<https://www.tsukaki.com/>



山口法律会計事務所

所長 弁護士 **山口 健一**

(法学部 昭和 49 年卒)

事務所 〒530-0047

大阪市北区西天満 1 丁目 7 番 20 号
JIN・ORIX ビル 6 階

TEL. 06-6361-3234 FAX.06-6361-0096

E-mai office@yamaguchi-law.jp

URL : <http://www.yamaguchi-law.jp>

Coil the World

お客様の安全・安心・感動を、我が社の『信頼』と共に

ダイヤモンド電機株式会社

本 社 : 〒532-0026 大阪市淀川区塚本 1 丁目 15 番 27 号

TEL : 06-6302-8141 FAX : 06-6302-8145

<https://www.diaelec.co.jp/>

物流を通じて豊かな明日に挑戦



株式会社 杉村 倉庫

杉村グループ: 杉村運輸株式会社

杉村物流サービス株式会社

杉村興産株式会社

本 社 : 〒552-0013 大阪市港区福崎 1 丁目 1 番 57 号

TEL 06-6571-1221 Fax 06-6574-8595

東京事務所: 〒103-0027 東京都中央区日本橋 1 丁目 2 番 10 号

TEL 03-3272-2441 Fax 03-3272-2446

営 業 所 : 関西圏 4 営業所、首都圏 4 営業所

ホームページ: <http://www.sugimura-wh.co.jp/>

柴田国際公認会計士事務所

公認会計士
税 理 士

柴 田 洋

(商学部 昭和 57 年卒)

住 所 〒541-0041

大阪市中央区北浜 1 丁目 1 番 14 号

北浜 1 丁目平和ビル 8 階

京阪北浜駅 29 番出口直結

T E L 06-6203-8880

F A X 06-6203-8881

U R L <http://www.hs-x.net>

M A I L shibata@cam.hi-ho.ne.jp

業務内容

国際税務

アメリカ

香港・中国

海外

日本

日本

海外子会社

海外駐在員

国内

コンサルティング

店頭上場支援 監査 Annual Report

上場支援 監査 目論見書

会社設立コンサルティング

IFAS 決算 開示

上場支援 監査 有価証券報告書

監査 移転価格 外税控除

所得税 相続税

海外 M&A 組織再編

掲 載 広 告

阪和興業(株) …………… 表2	(株)京都銀行 …………… P.46
ニシムラ(株) …………… P.20	ツカキグループ …………… P.46
弁護士法人なにわ共同法律事務所 …… P.20	山口法律会計事務所 …………… P.46
ユニ・チャーム(株) …………… P.20	ダイヤモンド電機(株) …………… P.46
(株)アシックス …………… P.24	(株)杉村倉庫 …………… P.46
(株)ダイセル …………… P.39	柴田国際公認会計士事務所 …………… P.46
三重交通グループホールディングス …… P.41	大和ハウス工業(株) …………… 表3
土佐堀法律事務所 …………… P.45	(株)ブライダル …………… 表4

会報広告料金表(消費税込み)

サイズ		全ページ	半ページ	1/4ページ	1/8ページ
(単位:mm)		H267×W181	H130×W181	H68×W181・H130×W86	H68×W86
掲 載 誌 面	記事(カラー)	180,000円	90,000円	50,000円	25,000円
	表4(カラー)	230,000円	＊ ＊	＊ ＊	＊ ＊
	表3(カラー)	200,000円	＊ ＊	＊ ＊	＊ ＊

※本件についてのお問い合わせ

大阪市立大学同窓会 会報編集委員会 広報担当:吉原(商昭49卒)

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

Tel:06-6605-2113

Fax:06-6605-2088

全学同窓会報誌 投稿規定

1. 投稿の種類等 原稿には、執筆者の氏名・学部・卒業年次、住所を明記して投稿をお願いします

種類	説明やお願い等	字数
1 論壇、随想	「表題」は付けて下さい。(関連及び顔写真)	1,200字以内
2 同窓短信	近況や思い出など。(顔写真)	400字以内
3 支部だより	支部関係の活動や諸行事。(顔写真)	400字以内
4 会員の広場	同期会、ゼミOBOG会、クラブOBOG会、同好会等の諸行事。(関連写真)	400字以内
5 図書紹介	原則、会員および大学関係者に限ります。紹介する図書1部のご提供をお願いします。	400字以内
6 追悼のこぼれ	故人の思い出など。(故人の顔写真)	400字以内
7 読者の声	大学、同窓会及び会報への意見等。(顔写真)	400字以内

※「図書紹介」を除き、原稿には原則として写真の添付をお願いします。

2. 原稿と写真等の採否および加筆・修正・削除など

- (1)原稿および写真等は、編集委員会に一任をお願いします。
- (2)原稿の字数は厳守をお願いします。オーバーした場合は、削除する場合があります。

3. 原稿の作成、提供と掲載について

- (1)原稿及び写真は出来る限りメールにてお願いします。メール以外の原稿は郵送でお願いします。
- (2)情報保護のため、詳細な住所は同窓会報誌に掲載しません。
- (3)参加者(「支部だより」と「会員の広場」)の「氏名・学部・卒業年次」はスペースの関係で同窓会報誌には代表者のみ掲載し、全員の情報はHPにて掲載します。

4. 写真等(写真、PowerPoint、手書きの図表など)の提供について

- (1)記事の内容、雰囲気や状況等をさらに良く伝えるため

- にも、キャプションなど簡潔な説明を付けた写真等の提供をお願いします。
- (2)原則としてデジカメで撮影したファイルをPDFにてメール送信してください。
- (3)プリント写真で提供の場合は、郵送してください。

5. 原稿の締め切り

- (1)1月発行・・・9月末日締め切り
- (2)7月発行・・・3月末日締め切り

6. 投稿方法と投稿先

- (1)メールアドレス
kaiho-b@ado.osaka-cu.ac.jp (会報誌専用)
- (2)郵便
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学内 田中記念館3階
大阪市立大学同窓会 会報誌編集委員会宛

編集後記

*有恒会報誌との合冊が漸く実現した。
ホームページとメールマガジンは既に全学ベースでスタートしている。
今後は、大阪市立大学同窓会報「有恒」誌が二つのツールを補完し、情報の共有化を更に進めたい。編集委員一同、読まれる会報誌を目指します。

*「桜花爛漫・・・」今年も桜が満開の杉本キャンパスに夢と希望をふくらませて多くの市大フレッシュマンが誕生した。
大阪府大との大学統合問題を控えているが、大学の4年間は長いようで短い。
皆さんには有意義な学生生活を送っていただきたい。

(編集人)

編集委員

奥田 幸次郎 (文昭34卒)	市村 彰男 (理院昭46卒)	前田 隆司 (法昭49卒)	宮本 賢治 (創都研)
○羽原 顕三 (商昭38卒)	山本 孝 (工昭45卒)	谷口 美樹子 (生科昭50卒)	辻野 美由紀 (看護研)
矢野 皖一 (経昭38卒)	野田 忠男 (工昭45卒)	上村 修三 (商昭53卒)	溝田 真優子 (経平9卒)
小林 俊介 (法昭44卒)	福森 俊一郎 (工昭45卒)	鈴木 一江 (文昭54卒)	
田中 祐尾 (医昭44卒)	吉原 淳一 (商昭49卒)	村上 芳子 (商昭58卒)	(○印 編集責任者)

再開発で新たな輝きを放ち始めた街が舞台。



■概念図

※掲載の概念図は位置関係を説明するものです。概念図は略図のため、省略されている道路・施設等があります。予めご了承ください。※徒歩分数は80mを1分として算出しています。

「プレミスト阿倍野駅前」モデルルーム案内会開催中

5駅7線利用可能で大阪主要都市へダイレクトアクセス。

Osaka Metro 谷町線 「阿倍野」駅徒歩 **1分**

Osaka Metro 御堂筋線 「天王寺」駅徒歩 **7分** JR大阪環状線・関西本線・阪和線 「天王寺」駅徒歩 **8分**

近鉄南大阪線 「大阪阿部野橋」駅徒歩 **7分** 阪堺電気軌道上町線 「阿倍野」駅徒歩 **1分**

※徒歩分数は80mを1分として算出しています。



カーナビをご利用の方は下記の住所を入力設定してください。
〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目5-1 あべのルシアス9階

お車でお越しの際は「あべのルシアス」の駐車場をご利用の上、駐車券をお持ちください。お帰りの際にご清算いたします。

お問い合わせは... ☎ 0120-048-178 営業時間/1000~1800 (火・水曜日定休(祝日を除く))

ダイワ 阿倍野駅前 検索 <http://dhms.jp/abeno-ekimae/>



※地図は概略図ですので省略されている道路・施設等があります。
※掲載の情報は、2018年4月時点のもので変更になる場合があります。

(株)ブライダルは
大阪市立大学校友の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

40年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、「大阪市立大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この同窓会報を見たとおっしゃってくだされば、校友の皆様は特典付(登録料100%OFF)にてご入会いただけます。

大阪市立大コース 登録料
100%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.*

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.*

※ 価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
Network / 東京・湘南・豊橋・名古屋・大阪